

平成22年度  
「教育委員会の主な事務の管理及び執行状況の点検・評価」報告書



平成23年9月  
美幌町教育委員会

### 教育委員会の主な事務の管理・執行状況の点検・評価並びに町議会への報告と町民への公表について

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「地教行法」という。）の一部改正により、平成20年4月より、教育委員会は、毎年その権限に属する事務の管理及び執行状況について、点検評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表することとされました。

点検及び評価を行うに当たっては、「教育に関する学識経験者を有する方の知見の活用を図る」ものとされ、点検・評価の具体的な項目や指標については、国で項目等は定めず、各教育委員会が、実情を踏まえて決定し、議会や地域住民の指摘を受けて改善していくこととなります。

美幌町教育委員会は、地教行法に基づき、効果的な教育行政の推進を図るとともに、町民の皆さまへの説明責任を果たすため、教育目標に基づく主な施策・事業について点検評価を行い、報告書としてまとめました。

なお、本年度は4年目であり、教育に関し学識経験を有する方によるご意見、ご指導はいただいておりますが、教育委員の意見を付し、その内容を報告しております。

学識経験を有する知見の活用については、今後引き続き評価方法の見直しの中で検討してまいります。

平成23年9月

美幌町教育委員会

## 目 次

1. 教育委員会の点検・評価について	1
(1) 地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正	1
(2) 点検・評価の導入目的	1
(3) 学識経験者の知見の活用	1
2. 教育施設の利用状況等について	2～ 7
3. 美幌町教育委員会の点検・評価について	8
(1) 目 的	8
(2) 実施方法	8
4. 点検・評価の結果について	9～57
(1) 教育委員による意見・評価等	9～13
(2) 教育委員会	14～20
(3) 学校教育グループ	21～29
(4) 社会教育グループ	30～40
(5) 図書館グループ	41～46
(6) 博物館グループ	47～50
(7) スポーツ振興グループ	51～56
(8) 学校給食グループ	57～59

## 1. 教育委員会の点検・評価について

### (1) 地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正

平成20年4月の地教行法の一部改正により、教育委員会は、教育委員会の責任体制の明確化の観点から、毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況について、点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表することとされました。（同法27条）

### (2) 点検・評価の導入目的

教育委員会制度は、市町村長から独立した機関であり、合議制の教育委員会が決定する教育行政に関する基本方針のもと、教育長及び事務局が広範かつ専門的な教育事務を執行するものです。

この改正において、教育委員会自らが点検及び評価を行い、その結果を議会に提出し、公表することにより、効果的な教育行政の推進に資するとともに、町民への説明責任を果たすことを目的としています。

点検・評価の具体的な項目や指標については、国で項目等は定めず、各教育委員会が、実情を踏まえて決定し、議会や地域住民の指摘を受けて改善していくこととなります。

### (3) 学識経験者の知見の活用

点検及び評価を行うに当たっては、あくまでも客観性を確保するという趣旨によるものであり、点検・評価の方法や結果について意見を聴取する機会を設けるなど、教育に関する学識経験を有する者の知見の活用を図ることと規定されました。

なお、どのような学識経験者の知見を活用するかについては、各教育委員会で工夫することとなっており、引き続き次年度以降の課題となっています。

#### ○地方教育行政の組織及び運営に関する法律(抜粋)

第27条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2. 教育施設の利用状況等について  
 (1) マナビティセンター利用状況

平成22年4月～平成23年3月

月別	大研修室		研修室(1)		研修室(2)		研修室(3)		研修室(4)		会議室		小会議室		和室(1)		和室(2)		陶芸室		木工芸室		手工芸室		計		
	団体数	人数(人)	団体数	人数(人)	団体数	人数(人)	団体数	人数(人)	団体数	人数(人)	団体数	人数(人)	団体数	人数(人)	団体数	人数(人)	団体数	人数(人)	団体数	人数(人)	団体数	人数(人)	団体数	人数(人)	団体数	人数(人)	団体数
4月	53	889	25	220	25	231	13	114	14	249	23	189	24	168	6	32	6	33	28	178	25	173	25	176	267	2,652	
5月	51	687	31	274	29	290	18	216	16	211	25	154	20	124	7	22	7	22	33	213	23	158	25	173	285	2,544	
6月	54	663	34	287	32	303	20	282	13	184	19	116	27	175	4	11	4	11	34	201	25	161	27	192	293	2,586	
7月	57	959	35	286	32	268	22	280	27	400	20	136	22	112	6	25	7	31	30	217	21	154	27	158	306	3,026	
8月	50	1,150	31	245	28	223	17	236	14	568	20	515	26	142	7	76	9	95	28	237	30	343	30	561	290	4,391	
9月	55	851	33	278	30	275	18	199	18	220	24	172	23	104	5	17	6	26	34	237	23	148	31	190	300	2,717	
10月	54	820	33	208	34	270	15	158	15	217	22	141	26	154	4	28	5	42	46	305	24	156	31	170	309	2,669	
11月	49	829	29	303	28	258	19	260	21	291	22	138	24	136	4	10	7	33	33	235	24	178	27	153	287	2,824	
12月	40	607	29	323	27	259	20	283	12	149	20	182	18	93	3	13	6	37	25	182	22	155	28	209	250	2,492	
1月	44	757	26	180	21	122	16	162	12	109	15	113	14	76	2	7	5	25	29	183	23	152	19	105	226	1,991	
2月	50	861	29	263	28	261	26	284	18	219	17	126	19	83	4	11	9	43	30	183	26	171	26	185	282	2,690	
3月	51	813	21	220	19	172	21	179	20	245	26	185	26	122	7	22	8	24	26	197	23	167	26	193	274	2,539	
計	608	9,886	356	3,087	333	2,932	225	2,653	200	3,062	253	2,167	269	1,489	59	274	79	422	376	2,568	289	2,116	322	2,465	3,369	33,121	

(2) 図書館現況

① 資料状況

蔵書冊数

平成22年3月～平成23年3月

分類	0 総記	1 哲学	2 歴史	3 社会	4 自科	5 工学	6 産業	7 芸術	8 語学	9 文学	計
蔵書冊数	7,462	3,490	11,718	14,943	7,639	8,091	3,674	27,266	1,679	45,362	131,344
児童書 (内数)	314	274	1,472	1,480	3,073	1,043	562	17,664	384	13,225	39,491
率	5.7	2.6	8.9	11.4	5.8	6.2	2.8	20.8	1.3	34.5	100.0

年度別蔵書、購入冊数及び貸出冊数

区 分	蔵書冊数	購入冊数	貸出冊数
平成13年度	113,204	6,164	136,632
平成14年度	115,423	5,692	130,935
平成15年度	117,542	6,025	145,541
平成16年度	121,797	5,479	147,435
平成17年度	123,213	5,115	145,018
平成18年度	124,602	5,087	152,001
平成19年度	126,706	5,913	158,715
平成20年度	128,220	5,166	159,783
平成21年度	129,280	5,544	164,144
平成22年度	131,344	5,674	162,119

② 貸出状況

月刊貸出状況 (総括)

平成22年4月～平成23年3月

区分	開館日数	児 童	一 般	合 計	1 日 平 均
4 月	25	4,641	9,313	13,954	558
5 月	24	5,025	8,608	13,633	568
6 月	24	4,849	7,943	12,792	533
7 月	24	5,986	8,701	14,687	612
8 月	26	5,333	7,976	13,309	512
9 月	24	4,306	7,864	12,170	507
10 月	25	5,297	8,208	13,505	540
11 月	23	5,490	7,916	13,406	583
12 月	25	5,796	8,326	14,122	565
1 月	21	4,520	8,669	13,189	628
2 月	23	4,462	8,637	13,099	570
3 月	23	4,892	9,361	14,253	620
計	287	60,597	101,522	162,119	565

分類別貸出状況 (総括)

平成22年4月～平成23年3月

分類	0 総記	1 哲学	2 歴史	3 社会	4 自科	5 技術	6 産業	7 芸術	8 語学	9 文学	計
貸出冊数	10,145	3,319	5,589	5,516	5,973	15,610	2,751	53,721	1,278	58,217	162,119
率	6.3	2.0	3.5	3.4	3.7	9.6	1.7	33.1	0.8	35.9	100.0

③ 館外活動

ユニットライブラリー

平成22年4月～平成23年3月

区 分	美 富	南	計
貸出冊数	531	491	1,022
1 ヶ月平均	44	41	85

(3) 博物館  
① 入館者状況

平成22年4月～平成23年3月

月別	開館 日数	幼 児	小中学生	高 校 生	大 人			計
					有 料		無 料	
					一 般	団 体		
4月	25	24	57	4	44		147	276
5月	26	85	474	7	89		602	1,257
6月	26	9	122	3	48	61	225	468
7月	27	40	275	2	91		270	678
8月	26	52	208	9	142		299	710
9月	25	127	383		90		662	1,262
10月	27	23	219	3	39		297	581
11月	23	10	85	3	42		207	347
12月	24	14	36	34	13		58	155
1月	21	5	47	4	16		38	110
2月	24	24	83		43		153	303
3月	27	13	52	4	32		156	257
計	301	426	2,041	73	689	61	3,114	6,404

② 事業参加状況

平成22年4月～平成23年3月

事業名	モノ作り 講座	自然講座	びほろふるさと 体験隊	学校連携 事業	講師依頼 (各団体より)	その他の 事業	計
回数	24	10	9	12	21	8	84
人数	523	231	140	337	513	479	2,223

(4) トレーニングセンター利用状況

平成22年4月～平成23年3月

月別	大研修室		調理実習室		視聴覚室		図書室		和室		トレーニングルーム	計	
	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	人数	団体数	人数
4月	42	623	9	102	15	199	7	84	20	198	831	93	2,037
5月	40	514	4	93	17	230	7	98	24	272	718	92	1,925
6月	42	426	11	134	16	151	6	47	20	151	576	95	1,485
7月	41	484	11	114	14	179	7	68	21	164	600	94	1,609
8月	31	298	6	64	9	154	6	57	17	98	523	69	1,194
9月	44	647	14	212	14	238	6	86	17	142	543	95	1,868
10月	40	455	12	143	17	294	5	46	16	120	678	90	1,736
11月	41	518	10	113	7	80	8	58	18	111	808	84	1,688
12月	46	742	11	121	8	130	8	68	15	317	860	88	2,238
1月	35	395	11	143	8	117	8	51	13	138	750	75	1,594
2月	40	519	9	101	13	152	6	53	21	201	916	89	1,942
3月	24	268	14	170	12	142	17	160	14	197	916	81	1,853
計	466	5,889	122	1,510	150	2,066	91	876	216	2,109	8,719	1,045	21,169

(5) スポーツセンター利用状況

平成22年4月～平成23年3月

月別	個人			団体		主催事業		計
	小、中学生	高校生	一般	件数	人数	回数	人数	
4月	1,141	199	1,146	6	440			2,926
5月	823	124	865	6	940	1	32	2,784
6月	579	13	691	12	1,141	5	200	2,624
7月	511	61	798	9	1,585	3	330	3,285
8月	271	41	661	6	706	1	105	1,784
9月	518	40	593	10	1,165	8	549	2,865
10月	877	44	803	15	519	3	140	2,383
11月	1,333	102	941	8	409	14	523	3,308
12月	1,102	118	918	15	532	13	240	2,910
1月	897	76	932	16	598	2	275	2,778
2月	1,225	150	1,084	14	861	5	130	3,450
3月	1,106	155	1,217	13	654	1	23	3,155
計	10,383	1,123	10,649	130	9,550	56	2,547	34,252



## (6) あさひ体育センター利用状況

平成22年4月～平成23年3月

月別	個人			団体		主催事業		計
	小、中学生	高校生	一般	件数	人数	回数	人数	
4月	422	9	1,263	1	82			1,776
5月	441	3	1,005	3	77			1,526
6月	428	15	1,076	1	31			1,550
7月	469	11	1,115	3	255			1,850
8月	283	24	894	2	76			1,277
9月	398	14	795	4	489			1,696
10月	542	23	924	3	264			1,753
11月	426	46	1,075	1	31			1,578
12月	341	6	1,018	2	68			1,433
1月	278	2	993	1	16			1,289
2月	400	5	1,166	1	65			1,636
3月	352	16	1,240	1	96			1,704
計	4,780	174	12,564	23	1,550			19,068

## (7) B&amp;G海洋センター利用状況

平成22年5月～8月

月別	日	個人				団体		主催事業		計
		幼児	小中学生	高校生	一般	件数	人数	回数	人数	
5月	26	13	110	1	192	17	436			752
6月	30	75	593		562	30	971			2,201
7月	31	123	573	9	609	45	1,469	1	120	2,903
8月	31	205	708	13	698	57	1,572	1	92	3,288
9月		改修工事のため閉館								
10月										
計	118	416	1,984	23	2,061	149	4,448	2	212	9,144

(8) リリー山スキー場利用状況

① 利用実績

平成22年12月～平成23年3月

項目	利用 日数	リフト 輸送人員	一般利用		スキー授業		自衛隊 訓練	指導者	ソリ	計
			大人	小人	小学生	中学生				
日数等	72	199,266	4,774	4,830	3,140	1,107	2,146	568	1,481	18,046

② 券売実績

平成22年12月～平成23年3月

月別	シーズン券	日中券		4時間券		回数券		1回券		教育券	計		
		大人	小人	大人	小人	大人	小人	大人	小人				
12月 <small>発売日数</small>	26	89	65	1	11	69	99	38	36	26	20	0	454
1月	31	48	23	12	34	552	760	346	486	203	118	0	2,582
2月	29	0	0	6	25	402	410	130	298	176	112	0	1,559
3月	6	0	0	0	0	26	55	6	10	41	11	0	149
計	92	137	88	19	70	1,049	1,324	520	830	446	261	0	4,744

(9) 網走川河畔公園パークゴルフ場利用状況

① 利用実績

平成22年4月～10月

月別	コース	計			
		いっくじさくら	しらかば	大正橋	
4月 <small>日</small>	2		59	52	111
5月	31	4,726	833	384	5,943
6月	30	5,444	797	446	6,687
7月	31	4,925	976	558	6,459
8月	31	4,218	892	517	5,627
9月	30	5,023	908	527	6,458
10月	31	5,612	793	426	6,831
計	186	29,948	5,258	2,910	38,116

② 券売実績

平成22年4月～10月

月別	シ ー ズ ン パ ス	1日券 利用者						計		
		65歳未満		65歳～75歳未満		75歳以上				
		男	女	男	女	男	女			
4月 <small>日</small>	16	38	24	162	111	157	52			544
5月	31	19	13	59	46	50	19	636	413	1,255
6月	30	3	1	14	6	17	5	542	555	1,143
7月	31	1		1	1	4	3	457	376	843
8月	31			1	1	4		334	558	898
9月	30					3	1	527	383	914
10月	31					3		440	374	817
計	200	61	38	237	165	238	80	2,936	2,659	6,414

### 3. 美幌町教育委員会の点検・評価について

#### (1) 目的

- ① 毎年、教育に関する事務事業の取組状況について点検及び評価を行い、町民の皆さまに課題や対応の方向性を明らかにすることにより、効果的な教育行政の推進を図ります。
- ② 点検及び評価の結果に関する報告書を作成し、議会に報告（9月まで）するとともに、町民に公表することにより、町民への説明責任を果たすこととします。

#### (2) 実施方法

- ① 各グループの全体評価、或いは今後の課題について記載し、それに基づく教育委員の指摘・評価結果を記載しております。
- ② 点検・評価の対象根拠  
美幌町教育目標及び第五次美幌町社会教育中期計画に基づき、主な施策・事務事業について対象としました。

#### 【美幌町教育目標】

##### 『人間性豊かな教育を目指して』

今日的に変ぼうする社会情勢の中で、教育の現状を踏まえ、美幌町の美しく豊かな自然環境と、その開拓精神にもとづき、町民ひとりひとりが人間的ふれあいを大事にし、生涯教育への関心を高め、生活・文化の発展をはかるとともに、人間性豊かにして心身共に健全であり、創意に富む児童生徒の育成を目指す美幌町の教育を推進する。

#### <学校教育>

##### ◎正しい判断と行動のできる児童生徒の育成をはかる学校教育を推進する

- ・自らが学ぶ学習態度の育成と、知性・創造性の啓発を
- ・豊かな心のふれあいを養うとともに、基本的な生活態度の育成を
- ・強じんな精神力・体力の培いを
- ・生命を尊重し、健康と安全の理解と習慣形成を
- ・勤労の尊さの理解と、意欲的な態度の育成を

#### <社会教育>

##### ◎明るく豊かな町づくりをすすめる社会教育を推進する

- ・町民各層の自主的な学習活動の啓もうと促進を
- ・文化活動並びにスポーツへの親しみを深め、その生活化を
- ・青少年団体の実践活動を促進し、心身の鍛練と連帯の強化を
- ・生涯に生きがいと、明るく楽しみのある生活づくりを

#### <教育行政>

##### ◎美幌町の教育の発展と充実を期する教育行政を推進する

- ・各学校との連携を密にし、共通の理解に立つ強力な指導体制の確立を
- ・教育環境並びに条件整備の積極的な促進と充実を
- ・町の関係各機関及び諸団体との連携強調をはかり、地域ぐるみの教育の展開を

#### 4. 点検・評価の結果について

##### (1) 教育委員による意見・評価等

###### ＜教育委員会＞

- ① 事務局が知っていることは教育委員も100%当然知っていなければなりませんので、情報の提供ではなく、情報の共有であると考えています。  
今回の報告書には、「情報の共有による活発で効率的な教育委員会の運営」、「教育委員と事務局職員の情報共有化を図り、教育行政に反映できるよう努める」さらには「教育委員が地域に溶け込み住民と接する機会を多くし、ともに子ども達のために進めて行こう」と報告しており、今後とも進めて欲しい。
- ② 美幌町の場合は、PTAなどとの各種交流も進んでおり他町村から比べても教育委員会への理解というのが変わってきている気がします。
- ③ 町民の中には教育委員会の組織を「よく分からない」「何をやっているのか分からない」という人がまだ多くいます。そのためにも交流の場は必要で、話しをすることで理解が進むと考えます。できるだけ多くの皆さんと話しをして、発信できる場を今後とも作っていきたい。
- ④ 要点記録がホームページに掲載されており、情報の公開は進んでいると思います。時間的にも余裕があれば、年に1、2回「教育委員会だより」などを出せば活動が保護者だけでなく、一般町民にも理解してもらえるので、今後の課題として欲しい。
- ⑤ 主体的に教育委員会、教育委員として色々な活動を展開することが求められております。前提は、町民の皆さんに教育委員会の活動がどういうものかということが、しっかり見えることが必要であり、PTA連合会との懇談であるとか、教育委員としては、交流の場をさらに広げて行くことが必要です。
- ⑥ 教育委員会は、各グループが自分の仕事だけでなく、各グループがどう町民に情報を発信していくのか、さらに連携し進めて行くことが必要です。

## <学校教育グループ>

- ① 学校評価を行い公表もされていますが、各学校が比較しづらく仕様が各々異なっています。各学校特色ある学校づくりは当然必要ですが、井の中の蛙にならないように客観的に、緊張感を持ち判るものとすべきで、ある程度統一的な形での公表を求めます。保護者アンケートなどの結果と児童生徒の評価も検討し、今後の学校活動に役立てていただきたい。
- ② 学校教育環境という観点では、まだまだ不十分ですが、一定の整備は少しずつ進んできていると思います。プールの水槽塗装、遊具の更新、トイレの洋式化など課題もあることから、更なる整備拡充を求めて欲しい。
- ③ 平成23年度から新しい学習指導要領が始まり、最重要課題は学力向上を求めています。学校の課題は教育の質の向上であって、教員の資質向上が必要です。子ども達に関わる中で先生方も多忙でしょうが、美幌町教育委員会として何らかのサポート体制も必要と考えます。
- ④ 当然のことではありますが教職員は教育公務員としての使命と責任を自覚し、服務規律を遵守していただきたい。
- ⑤ 全国学力調査で、個々の公表は別としても、町内でも学校毎の公表もありません。美幌町に三つの小学校があったら、同じように健やかに、同じように学力を身につけて欲しいと願っています。自分は一生懸命やっているから良いからとかではなく、順位を付けるとかではなくて、調査結果を検証して、学校全体でどう指導していくかを考えて進めて行くことが重要です。
- ⑥ 中学校は高校への進学があるので、自然とランク付けされるので少しは学力を意識していると思いますが、小学校は意識が薄いのではないのでしょうか。児童による授業評価を取り入れ、公表することで意識が変わってくる可能性もあります。
- ⑦ 先生方がどう受け止めるかは分かりませんが、個人差はあるにせよ町内の学校は一定の学力レベルを求めるべきで、学力調査の結果を知ることは必要なことではないかと思います。
- ⑧ 全国学力調査は数年やってきて、その結果に対して教員の皆さんは目を瞑っていようという意識があるのではないか？この一年二年で色々なところで話題になって、学力調査を意識せざるを得ない環境になってきたと思います。学校訪問でも校長から学力向上の話が出てきており、これまでは学力調査の発言自体があまり無かったが、学力調査はすでにあるものとして環境が整ってきました。この学力調査に関する結果を有効に活用して欲しい。
- ⑨ 学力調査の結果を受けて、それぞれの学校の課題が把握できてきたと思います。放課後自習、朝の読書、計算道場など改善プランを実行しており、色々な動きが出てきていることはとても良い。
- ⑩ 昨年の学校アンケートの発言内容では、基礎学力が不足しているにもかかわらず、高等学校へ進学して、就職もおぼつかないばかりか、短期間で高校を辞めていく実態が書かれていました。小中学校の時期にしっかりと基礎学力を身につかせておかないと、その子の将来が大変なことになります。教育委員会が学校をバックアップし学力向上に努め、より良い教育を施して欲しい。
- ⑪ 先生方には義務教育の目標を達成できるよう今も取り組んでいることを承知していますが、美幌町としてさらに前向きな目標、項目があっても良いのではないのでしょうか。また、それを保護者、地域住民に投げかけていかなければならないと思います。
- ⑫ 学校支援地域本部事業については3年間で終了していますが、外部講師など地域人材活用事業は従来にも増して充実して欲しい。各種学校サポート事業は各部署でバラバラにならないよう取り組んで欲しい。
- ⑬ 学校運営協議会など協議の場については、評議員会などを発展的に展開する必要があります。評議員は、様々な意見があると思いますが、報告書は上がってくるものの、なかなか学校からその意見が聞こえてきません。評議員の温度差もあるのかも知れないが、各学校評議員の自発的な横の連携組織の立ち上げも必要と思います。

＜社会教育グループ＞

- ① 学校教育活動の支援を目的とした教育資源リストは毎年更新されており、小中学校での更なる活用を期待します。
- ② 中学生を対象とした事業は、クラブ活動などの関係もあり苦戦しているようですが、前向きに取り組んでいただきたい。
- ③ つみきサークル（高校生リーダー養成事業）は、一時期は参加者が減少していましたが、職員の熱意もあり参加者が増加しています。今後の活動に期待します。
- ④ 社会教育事業は、美幌町規模の町としてはそれなりに充実していると感じます。少子高齢、人口の減少という中で、今後は事業の数より質の問題の時期が来ています。ニーズがあれば事業展開することも必要ですが、取捨選択も必要と思います。
- ⑤ 事業費の予算計上にあたり昨年に引き続き予算を付けているものもありますが、十数万円の執行残の事業があります。他の事業に使うこともできたと思うので残念です。
- ⑥ 各種サークルの会員が減少傾向にあるようですが、保健福祉部門の施設などにおいては会員も増えていることから、教育関連の各種講座などについては町民ニーズを的確に捉えて進めて欲しい。
- ⑦ （仮称）文化ホールは来年にオープンとなります。文化、芸能活動はサークル数や参加者の減少等で少し厳しい状況と聞いていますが、利用促進に向けての取り組みが大事だと思います。
- ⑧ 教育委員会事業のみならず町の各種事業で、参加者の奪い合いが起きている可能性があります。事業をまとめることや中身の濃いものとするなど一定の整理は必要と感じます。
- ⑨ 「電話聞き役ホットライン」の相談については、教育相談室さらには各種の相談機関もあり、これが終了することによって、支障が生ずることは無いようですが、終了する場合は、次に対応できる場所を子ども達に十分周知していただきたい。
- ⑩ キッズカルチャースクールは、参加者が集まらず中止した事業もあったようですが、学校への働きかけも重要です。子どもたちの関心が高まれば参加者も増えるのではないかと思います。
- ⑪ 各年代層を対象とした事業として、小学生体験活動やフレッシュママセミナー、明和大学、サークル活動などが行われていますが、中間層の30代から40代の事業が少ないように感じます。また、各講座の参加者を見てもその層の人数が少なく、どう呼びかけていくかが課題となっています。

＜図書館グループ＞

- ① 読書感想文コンクールは、他市町村が縮小する中、図書館司書、町内各学校教員の協力により進められており、今後も継続して欲しい。
- ② 図書の未返却については、51名、117冊（前年29名、83冊）であり、電話催促、はがき督促、訪問催促などの努力は認めますが、さらに積極的な返却努力に期待します。
- ③ 「絵本とあそぼ！」などは、ブックスタートがきっかけとなり、子ども達への絵本の動機付けとなっています。ボランティアの協力、発掘に引き続き取り組んで欲しい。
- ④ 宅配サービスなど、介助を必要とする人たちにもきめ細かな対応をしています。今後はボランティアなどの協力も視野に入れ展開して欲しい。
- ⑤ 学力テストでも国語B、算数Bなど応用問題が少し弱い。読解力は全てに共通していることなので、乳幼児同伴者に対しての読書への理解、小学校への選書のアドバイスなど働きかけをして欲しい。
- ⑥ 近年は図書の予算の確保は行われており、環境も整いつつある。今後とも図書館活動の充実を望みます。

### ＜博物館グループ＞

- ① 町内の小学校はもとより高等学校や他町の小学校も含めた総合的な学習や理科における授業支援を行い成果が出てきています。講座、教室内容の充実とともに、自然、歴史、考古、民俗など、町民が博物館活動に慣れ親しむよう、今後とも事業運営に期待しています。
- ② 博物館施設の自前改修は限界もあり、老朽化対策を含めて計画的な対応が必要と感じます。
- ③ 入館実績は、昨年より約1,000名増加しています。待ちの姿勢ではなく、学芸員が積極的に館外で学校等を支援している成果であり、みどりの村関連施設の入り込み数に影響を受ける中、博物館に接点を持つ人が増えていることは喜ばしい。
- ④ 人道的に受け入れ人数に限りがある中、夏休みこども工作教室も人気があるようなので、今後の工夫した展開に期待したい。
- ⑤ ウチダザリガニは、生態系に影響を及ぼし、やっかいなものであるが、少しずつ防除の成果も上がっており、今後とも研究を進めて欲しい。
- ⑥ 学芸協力員として、東京農大の博士課程在学者、さらには地域の研究者などが、調査活動と一緒に同行し活動しており、今後とも、様々な連携を取って進めて欲しい。

### ＜スポーツ振興グループ＞

- ① スポーツ振興法が全面改正され、スポーツ基本法となり、6項目の理念をどう実現していくのか、今後検討が必要です。
- ② 美幌町はオリンピック選手を多く輩出している。特に冬季スポーツ（スキー、スケート）については、伝統的に小学校から継続的に進められてきた成果と考えて良い。指導者を含めて小学校では取り組みづらいつらいのかもしれないが、継続できる方向で是非進めて欲しい。
- ③ 外部講師として、水泳、スキー、スケート授業について、学校へ派遣されていますが、近年指導者の確保に苦労しているようです。今後とも外部指導者の育成も含めて努力願いたい。
- ④ NPO法人美幌町体育協会との関わり、総合型スポーツクラブとの連携などありますが、先ず第一に体育施設の維持管理、点検・充実に努めていただきたい。
- ⑤ 陸上少年団など町内の様々なスポーツ少年団活動は活発であり、その指導育成成果により、多くの中学生が全道・全国大会に出場し、大変喜ばしいことである。

### ＜学校給食グループ＞

- ① 地産地消の取り組みでは、青果類地場産使用割合は28品目中21品目で75%、野菜類の重量では45.3%であり、美幌町の農畜産物への理解は深まってきていると思います。
- ② 安心安全な給食を考えたとき経年劣化による各種調理器具の更新、施設の保守管理点検、衛生管理、食品検査には万全を期して欲しい。
- ③ 米飯は週3回のうち、地場産は月1回の使用となっている。仕入れ価格の問題はあるかも知れないが、生産者と調整し積極的に地場産を活用して欲しい。
- ④ 今ほど食の安心安全が声高に叫ばれている時はありません。北海道は食糧自給率は200%なので、子どもの時から旬に合わせた食材、献立で「ふるさと給食」を引き続き実施して欲しい。このことにより、風土、産業を知り、郷土愛も生まれます。
- ⑤ スクールバス事故が12月に発生しています。何年か前には子どもが交通事故で犠牲になったこともありました。事故に巻き込まれないよう安全運転の徹底を図っていただきたい。

## おわりに

学校教育においては、学力向上が最重点の目標であり、当然、学習状況調査の結果も生かしながら、平均点以下の生徒を出さないためには、「ここまでは学習・理解させるといふ」基礎・基本を考えてはどうでしょうか。基準が分かれば全体的な目標も立てやすく、また保護者も安心します。

社会教育においては、家庭の教育力があらためて問われる中で、学校の役割や家庭の役割を十分に認識し、町民と連携協働することが必要と考えます。今後の施策に期待しています。

図書館においては、幼少期からのブックスタートなどのきっかけ事業を展開しており、ボランティアとの協力関係の中から、読書活動の推進を図っていただきたい。また、ブックスタートの第二弾として対象年齢を変え、現行事業と連続させ、さらなる読書習慣の形成を育む施策の展開に期待したい。

博物館においては、町内の小学校はもとより高等学校や他町の小学校も含めた総合的な学習や理科における授業支援を行い成果が出てきています。講座、教室内容の充実とともに、自然、歴史、考古、民俗など、町民が博物館活動に慣れ親しむよう、今後とも展開される事業運営に期待しています。

また、入館実績も増えており、学芸員の積極的な館外活動の成果が出てきています。様々な取り組みの中から、より良い活動を期待しています。

スポーツ振興においては、NPO美幌町体育協会、総合型スポーツクラブとの連携を図りながら、体育施設の維持管理、点検・充実を第一に、より良い活動を期待しています。

学校給食においては、地産地消により、郷土愛を育むため、地場産使用割合を高め積極的に活用して欲しい。当然のことながら安心安全な給食の提供するため、施設の保守管理点検、衛生管理、食品検査には万全を期していただきたい。

各グループでは、予算をかけずに屋根の塗装であるとか、博物館は自前で改修を行っており、その努力は並々ならぬものがあります。

最後に、美幌町の教育は、町民や保護者が連携、協働を図り、地域に開かれ、信頼されながら施策が推進されることを改めて期待するものです。



(2) 教育委員会

	事務・事業名	事業の目的	手段(手立て)・方法	具体的な活動目標	達成目標(数値目標)	点検・評価(実績達成率)	点検・評価
教育委員会	1.教育委員会の活性化	<p>教育委員会は、年齢、性別、職業等、人格が高潔で幅広い分野の委員で構成され、合議制の執行機関として、大所高所から基本方針を決定し、その方針の決定を受け、教育行政の専門家として教育長が、事務局を指揮監督して執行する仕組みとなっています。</p> <p>教育委員会は、この役割と責任を明確にし、これまで以上に教育行政の現実を把握し、地域の多様な特性や地域住民の意思を反映させながら、課題解決のため積極的な教育行政を展開し得よう教育委員会の活性化を推進し、その役割と機能の充実を図る。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 適格な教育委員の選任と研修の場と機会の確保</li> <li>2. 情報の共有による活発で効率的な教育委員会の運営</li> <li>3. 保護者、地域住民の意向等を反映するための情報提供</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 適格な教育委員の選任と研修の場と機会の確保               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 教育委員の選任 保護者を含め、年齢、女性の登用に留意しながら、教育行政に深い関心と熱意を有し、教育委員に相応しい人材の選任。</li> <li>(2) 教育委員の研修 教育委員会の審議に適切な判断と決定を行うため、学校、地域の視察、移動教育委員会や美幌町内、北見ブロック等、北海道教育委員研修会への参加、事務局からの情報提供。</li> </ol> </li> <li>2. 情報の共有による活発で効率的な教育委員会の運営               <ul style="list-style-type: none"> <li>・今日的な様々な教育課題に対し、情報の共有化により迅速かつ的確に対応できる定例会及び協議会。</li> <li>・教育に関する基本方針の決定、教育行政の課題等への取組み策における活発で効率的な対応。</li> </ul> </li> <li>3. 保護者、地域住民の意向等を反映するための情報提供               <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校、保護者、地域住民の多様な要望や意向の把握と情報の共有。</li> </ul> </li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 適格な教育委員の選任と研修の場と機会の確保               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 教育委員の選任 教育委員に相応しい人材の選任と保護者の教育委員への選任。</li> <li>(2) 教育委員の研修                   <ol style="list-style-type: none"> <li>① 学校現場等視察及び教職員との意見交換による状況把握                       <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校視察(町内6小中学校)</li> <li>・学校給食センター、その他教育施設への視察</li> </ul> </li> <li>② 各種教育委員研修への積極的な参加により他自治体教育委員との情報、意見交換等による知識の向上                       <ul style="list-style-type: none"> <li>・全道教育委員研修会及び道内視察(7月7日～9日：札幌市)</li> <li>・北見ブロック教育委員研修会(11月29日：北見市)</li> <li>・網走管内教育委員大会(12月6日：網走市)</li> </ul> </li> </ol> </li> </ol> </li> <li>2. 情報の共有による活発で効率的な教育委員会の運営               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 教育委員会定例会議案の事前配布(13回)</li> <li>(2) 教育行政の課題について、定例会にて協議</li> </ol> </li> <li>3. 保護者、地域住民の意向等を反映するための情報提供               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) P T A 連合会役員との懇談</li> <li>(2) 各中学校 P T A 役員との懇談</li> </ol> </li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 適格な教育委員の選任と研修の場と機会の確保               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 教育委員に相応しい人材を選任(保護者の教育委員を含む。)</li> <li>(2) 教育委員の研修 (延19名/20名)95%</li> </ol> </li> <li>2. 情報の共有による活発で効率的な教育委員会の運営               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 人事、学校の管理運営事項、予算編成方針など、協議会において積極的に情報の共有を図った。 100%</li> <li>(2) 予算編成前に教育委員の意見を聞き、予算に反映させた。</li> </ol> </li> <li>3. 保護者、地域住民の意向等を反映するための情報提供               <p>前年から比較すると P T A との懇親など会議の機会は増加している。 (延 5名/ 5名) 100%</p> </li> </ol>	<p>本町教育委員会は、定例会等において随時当面する教育行政課題として、各グループで取り組む各種事務事業について事務局より積極的に情報の提供を行ってきました。</p> <p>今後とも委員提起の教育行政に関する事項を推進するため、教育委員から事務局が方針作成前・事業実施前に課題を提起いたします。事務局は教育委員に更に多くの情報を提供し、教職員の意向や児童生徒の保護者、地域住民の意向を把握し、教育委員と事務局職員の情報の共有化を図り、教育行政に反映できるよう努めます。</p> <p>今後とも、教育委員が地域住民と接する機会を多くし、教育委員会定例会の審議記録要旨のホームページ公表等の充実を図り、積極的に広く地域住民に知らしめます。</p> <p>また、教育委員のさらなる意見反映を図るための施策の充実を検討いたします。</p>

## ○平成22年度 教育委員会議の開催状況

教育委員会の会議は、原則として毎月1回「教育委員会定例会」を、また必要に応じて臨時会を開催し、平成22年度は合計13回開催しました。そのほかに非公開で連絡事項、諸課題について協議会を開催し、意見交換を行っています。

### (1) 美幌町教育委員会 定例会・臨時会

委員会名	議案番号	付 議 事 項	公開別	会議年月日	類 未
第 1 回 定 例 会	議 案 第 1 号	美幌町就学指導委員会委員の委嘱について	公 開	平 2 2 . 4 . 2 7	決 定
第 1 回 定 例 会	議 案 第 2 号	美幌町立学校の学校評議員の委嘱について	公 開	平 2 2 . 4 . 2 7	決 定
第 1 回 定 例 会	議 案 第 3 号	美幌町立学校の学校医の委嘱について	公 開	平 2 2 . 4 . 2 7	決 定
第 1 回 定 例 会	議 案 第 4 号	美幌町社会教育委員の委嘱について	公 開	平 2 2 . 4 . 2 7	決 定
第 1 回 定 例 会	議 案 第 5 号	美幌町体育指導委員の委嘱について	公 開	平 2 2 . 4 . 2 7	決 定
第 1 回 定 例 会	議 案 第 6 号	美幌町学校給食運営委員会委員の委嘱について	公 開	平 2 2 . 4 . 2 7	決 定
第 1 回 定 例 会	議 案 第 7 号	美幌博物館協議会委員の委嘱について	公 開	平 2 2 . 4 . 2 7	決 定
第 1 回 定 例 会	議 案 第 8 号	美幌町図書館協議会委員の委嘱について	公 開	平 2 2 . 4 . 2 7	決 定
第 1 回 定 例 会	議 案 第 9 号	第6次美幌町社会教育中期計画の策定に関する諮問につて	公 開	平 2 2 . 4 . 2 7	決 定
第 1 回 定 例 会	議 案 第 1 0 号	平成21年度教育費補正予算の専決処分について	非 公 開	平 2 2 . 4 . 2 7	決 定
第 1 回 定 例 会	議 案 第 1 1 号	平成22年度奨学金貸与生の決定について	非 公 開	平 2 2 . 4 . 2 7	決 定
第 2 回 定 例 会	議 案 第 1 2 号	平成22年度教育費補正予算について	非 公 開	平 2 2 . 5 . 2 7	決 定
第 3 回 定 例 会	議 案 第 1 3 号	美幌町立学校管理規則の一部改正について	公 開	平 2 2 . 6 . 2 9	決 定
第 3 回 定 例 会	議 案 第 1 4 号	美幌町教職員の交通事故防止に関する規程の制定について	公 開	平 2 2 . 6 . 2 9	決 定
第 4 回 定 例 会	議 案 第 1 5 号	美幌町就学指導委員会委員の委嘱について	公 開	平 2 2 . 7 . 2 3	決 定
第 4 回 定 例 会	議 案 第 1 6 号	美幌町社会教育委員の委嘱について	公 開	平 2 2 . 7 . 2 3	決 定
第 5 回 定 例 会	議 案 第 1 7 号	平成21年度「教育委員会の主な事務の管理及び執行状況の点検及び評価」報告書の提出について	非 公 開	平 2 2 . 8 . 3 1	決 定
第 5 回 定 例 会	議 案 第 1 8 号	平成23年度使用小学校及び中学校教科用図書の採択について	非 公 開	平 2 2 . 8 . 3 1	決 定
第 5 回 定 例 会	議 案 第 1 9 号	平成23年度使用小学校及び中学校特別支援学級教科用図書（一般採択）の採択について	非 公 開	平 2 2 . 8 . 3 1	決 定
第 5 回 定 例 会	議 案 第 2 0 号	平成22年度教育費補正予算について	非 公 開	平 2 2 . 8 . 3 1	決 定
第 6 回 臨 時 会	議 案 第 2 1 号	平成22年度奨学金貸与生の決定について	非 公 開	平 2 2 . 9 . 8	決 定
第 7 回 定 例 会	議 案 第 2 2 号	美幌町教育委員会委員長職務代理者の指定について	公 開	平 2 2 . 9 . 2 8	決 定
第 9 回 定 例 会	議 案 第 2 3 号	美幌町奨学金条例の全部改正について	非 公 開	平 2 2 . 1 1 . 1 8	決 定
第 9 回 定 例 会	議 案 第 2 4 号	平成22年度教育費補正予算について	非 公 開	平 2 2 . 1 1 . 1 8	決 定
第 1 0 回 定 例 会	議 案 第 2 5 号	美幌町就学指導委員会委員の委嘱について	公 開	平 2 2 . 1 2 . 8	決 定
第 1 0 回 定 例 会	議 案 第 2 6 号	平成22年度教育費補正予算について	非 公 開	平 2 2 . 1 2 . 8	決 定

委員会名	議案番号	付 議 事 項	公開別	会議年月日	顛 末
第 1 0 回 定 例 会	議 案 第 2 7 号	平成22年度教育費補正予算について	非 公 開	平 2 2 . 1 2 . 8	決 定
第 1 1 回 定 例 会	議 案 第 2 8 号	美幌町就学指導委員会委員の委嘱について	公 開	平 2 3 . 1 . 2 0	決 定
第 1 1 回 定 例 会	議 案 第 2 9 号	工事請負契約の締結について（報告）	公 開	平 2 3 . 1 . 2 0	決 定
第 1 1 回 定 例 会	議 案 第 3 0 号	平成22年度教育費補正予算について（報告）	公 開	平 2 3 . 1 . 2 0	決 定
第 1 2 回 定 例 会	議 案 第 3 1 号	美幌町奨学金条例施行規則の全部改正について	公 開	平 2 3 . 2 . 2 4	決 定
第 1 2 回 定 例 会	議 案 第 3 2 号	美幌町教育委員会指導主事設置要綱の制定について	公 開	平 2 3 . 2 . 2 4	決 定
第 1 2 回 定 例 会	議 案 第 3 3 号	処分内申について	非 公 開	平 2 3 . 2 . 2 4	決 定
第 1 2 回 定 例 会	議 案 第 3 4 号	平成22年度教育費補正予算について（報告）	公 開	平 2 3 . 2 . 2 4	決 定
第 1 2 回 定 例 会	議 案 第 3 5 号	平成22年度教育費補正予算について	非 公 開	平 2 3 . 2 . 2 4	決 定
第 1 2 回 定 例 会	議 案 第 3 6 号	平成23年度教育費予算原案について	非 公 開	平 2 3 . 2 . 2 4	決 定
第 1 3 回 定 例 会	議 案 第 3 7 号	語学指導等を行う外国青年任用規則の一部改正について	公 開	平 2 3 . 3 . 2 2	決 定
第 1 3 回 定 例 会	議 案 第 3 8 号	第6次美幌町社会教育中期計画について	公 開	平 2 3 . 3 . 2 2	決 定
第 1 3 回 定 例 会	議 案 第 3 9 号	美幌町子どもの読書活動推進計画について	公 開	平 2 3 . 3 . 2 2	決 定
第 1 3 回 定 例 会	議 案 第 4 0 号	平成23年4月1日付教職員の人事異動について	非 公 開	平 2 3 . 3 . 2 2	決 定
第 1 3 回 定 例 会	議 案 第 4 1 号	平成23年4月1日付教育委員会嘱託職員の任用について	非 公 開	平 2 3 . 3 . 2 2	決 定
第 1 3 回 定 例 会	議 案 第 4 2 号	美幌町立学校の学校歯科医の委嘱について	公 開	平 2 3 . 3 . 2 2	決 定
第 1 3 回 定 例 会	議 案 第 4 3 号	平成22年度奨学金貸与生の決定について	非 公 開	平 2 3 . 3 . 2 2	決 定

委員会名	議案番号	付 議 事 項	公開別	会議年月日	顛 末
第 7 回 定 例 会	選 挙 第 1 号	美幌町教育委員会委員長の選挙について	公 開	平 2 2 . 9 . 2 8	決 定

委員会名	議案番号	付 議 事 項	公開別	会議年月日	顛 末
第 1 回 定 例 会	報 告 第 1 号	入学式における国旗国歌の実施状況について	公 開	平 2 2 . 4 . 2 7	了 知
第 1 回 定 例 会	報 告 第 2 号	小・中学校及び少年団等の全道全国大会出場結果について	公 開	平 2 2 . 4 . 2 7	了 知
第 1 回 定 例 会	報 告 第 3 号	平成22年度北海道博物館協会表彰受賞について	公 開	平 2 2 . 4 . 2 7	了 知
第 1 回 定 例 会	報 告 第 4 号	寄附の報告について	公 開	平 2 2 . 4 . 2 7	了 知
第 2 回 定 例 会	報 告 第 5 号	小・中学校及び少年団等の全道全国大会出場結果について	公 開	平 2 2 . 5 . 2 7	了 知
第 2 回 定 例 会	報 告 第 6 号	平成21年度末教育関係基金の状況について	公 開	平 2 2 . 5 . 2 7	了 知
第 2 回 定 例 会	報 告 第 7 号	寄附等の報告について	公 開	平 2 2 . 5 . 2 7	了 知
第 3 回 定 例 会	報 告 第 8 号	平成22年第3回美幌町議会定例会の開催結果について	公 開	平 2 2 . 6 . 2 9	了 知

委員会名	議案番号	付 議 事 項	公開別	会議年月日	顛末
第 3 回 定 例 会	報 告 第 9 号	死亡叙勲の伝達について	公 開	平 2 2 . 6 . 2 9	了 知
第 3 回 定 例 会	報 告 第 1 0 号	平成22年度全国市町村教育委員会連合会功労者表彰の伝達について	公 開	平 2 2 . 6 . 2 9	了 知
第 3 回 定 例 会	報 告 第 1 1 号	寄贈の報告について	公 開	平 2 2 . 6 . 2 9	了 知
第 3 回 定 例 会	報 告 第 1 2 号	教育委員会職員の退職・採用について	公 開	平 2 2 . 6 . 2 9	了 知
第 3 回 定 例 会	報 告 第 1 3 号	第9地区教科用図書選定委員会委員候補者の推薦について	非 公 開	平 2 2 . 6 . 2 9	了 知
第 4 回 定 例 会	報 告 第 1 4 号	寄附の報告について	公 開	平 2 2 . 7 . 2 3	了 知
第 4 回 定 例 会	報 告 第 1 5 号	小・中学校及び少年団等の全道全国大会出場結果について	公 開	平 2 2 . 7 . 2 3	了 知
第 5 回 定 例 会	報 告 第 1 6 号	平成22年第4回美幌町議会臨時会の開催結果について	公 開	平 2 2 . 8 . 3 1	了 知
第 5 回 定 例 会	報 告 第 1 7 号	小・中学校及び少年団等の全道全国大会出場結果について	公 開	平 2 2 . 8 . 3 1	了 知
第 5 回 定 例 会	報 告 第 1 8 号	寄附の報告について	公 開	平 2 2 . 8 . 3 1	了 知
第 7 回 定 例 会	報 告 第 1 9 号	美幌町教育委員会委員の任命について	公 開	平 2 2 . 9 . 2 8	了 知
第 7 回 定 例 会	報 告 第 2 0 号	平成22年第5回美幌町議会定例会の開催結果について	公 開	平 2 2 . 9 . 2 8	了 知
第 7 回 定 例 会	報 告 第 2 1 号	死亡叙勲の伝達について	公 開	平 2 2 . 9 . 2 8	了 知
第 7 回 定 例 会	報 告 第 2 2 号	小・中学校及び少年団等の全道全国大会出場結果について	公 開	平 2 2 . 9 . 2 8	了 知
第 7 回 定 例 会	報 告 第 2 3 号	寄贈の報告について	公 開	平 2 2 . 9 . 2 8	了 知
第 7 回 定 例 会	報 告 第 2 4 号	平成22年度北海道スポーツ賞受賞について	公 開	平 2 2 . 9 . 2 8	了 知
第 7 回 定 例 会	報 告 第 2 5 号	小・中学校及び少年団等の全道全国大会出場結果について	公 開	平 2 2 . 9 . 2 8	了 知
第 8 回 定 例 会	報 告 第 2 6 号	小・中学校及び少年団等の全道全国大会出場結果について	公 開	平 2 2 . 1 0 . 2 6	了 知
第 8 回 定 例 会	報 告 第 2 7 号	平成22年度自治功労者等表彰について	公 開	平 2 2 . 1 0 . 2 6	了 知
第 8 回 定 例 会	報 告 第 2 8 号	平成22年度優良読書グループ北海道表彰受賞について	公 開	平 2 2 . 1 0 . 2 6	了 知
第 8 回 定 例 会	報 告 第 2 9 号	社団法人日本善行会平成22年度秋季善行表彰受賞について	公 開	平 2 2 . 1 0 . 2 6	了 知
第 8 回 定 例 会	報 告 第 3 0 号	寄附等の報告について	公 開	平 2 2 . 1 0 . 2 6	了 知
第 9 回 定 例 会	報 告 第 3 1 号	平成22年第6回美幌町議会臨時会の開催結果について	公 開	平 2 2 . 1 1 . 1 8	了 知
第 9 回 定 例 会	報 告 第 3 2 号	就学时健康診断の結果について	公 開	平 2 2 . 1 1 . 1 8	了 知
第 9 回 定 例 会	報 告 第 3 3 号	寄贈等の報告について	公 開	平 2 2 . 1 1 . 1 8	了 知
第 9 回 定 例 会	報 告 第 3 4 号	平成22年度北海道体育指導委員功労者表彰受賞について	公 開	平 2 2 . 1 1 . 1 8	了 知
第 1 0 回 定 例 会	報 告 第 3 5 号	平成22年第7回美幌町議会臨時会の開催結果について	公 開	平 2 2 . 1 2 . 8	了 知
第 1 0 回 定 例 会	報 告 第 3 6 号	寄附の報告について	公 開	平 2 2 . 1 2 . 8	了 知
第 1 0 回 定 例 会	報 告 第 3 7 号	美幌町就学指導委員会の判定結果について	非 公 開	平 2 2 . 1 2 . 8	了 知

委員会名	議案番号	付 議 事 項	公開別	会議年月日	顛末
第10回定例会	報告第38号	美幌町教育委員会教育長の給与及び勤務時間等に関する条例の一部を改正する条例制定について	公開	平22.12.8	了知
第11回定例会	報告第39号	平成22年第8回美幌町議会定例会の開催結果について	公開	平23.1.20	了知
第11回定例会	報告第40号	平成23年第1回美幌町議会臨時会の開催結果について	公開	平23.1.20	了知
第11回定例会	報告第41号	小・中学校及び少年団等の全道全国大会出場結果について	公開	平23.1.20	了知
第11回定例会	報告第42号	平成22年度北海道交通安全推進委員会会長表彰受賞について	公開	平23.1.20	了知
第11回定例会	報告第43号	寄附等の報告について	公開	平23.1.20	了知
第11回定例会	報告第44号	平成23年度教育費予算原々案について	非公開	平23.1.20	了知
第12回定例会	報告第45号	平成23年第2回美幌町議会臨時会の開催結果について	公開	平23.2.24	了知
第12回定例会	報告第46号	小・中学校及び少年団等の全道全国大会出場結果について	公開	平23.2.24	了知
第12回定例会	報告第47号	美幌町出身スポーツ選手の国内・国際大会出場結果について	公開	平23.2.24	了知
第12回定例会	報告第48号	美幌町スポーツ奨励賞の決定について	公開	平23.2.24	了知
第12回定例会	報告第49号	寄贈の報告について	公開	平23.2.24	了知
第12回定例会	報告第50号	第6次美幌町社会教育中期計画の答申について	非公開	平23.2.24	了知
第13回定例会	報告第51号	平成23年第3回美幌町議会定例会の開催結果について	公開	平23.3.22	了知
第13回定例会	報告第52号	小・中学校及び少年団等の全道全国大会出場結果について	公開	平23.3.22	了知
第13回定例会	報告第53号	寄贈等の報告について	公開	平23.3.22	了知
第13回定例会	報告第54号	卒業式における国旗国歌の実施状況について	公開	平23.3.22	了知
第13回定例会	報告第55号	美幌町立中学校特別支援学級の開設について	公開	平23.3.22	了知



## (3) 平成22年度美幌町教育委員会諸活動（参加者は、教育長を除く委員4名延べ日数で積算）

年 月 日	用 務	参加者	備 考
平成22年 4月 1日	教育委員会職員辞令交付式	1	
平成22年 4月 2日	教職員着任式	4	
平成22年 4月 6日	美幌小学校、東陽小学校、旭小学校、福豊小学校入学式	4	
平成22年 4月 7日	美幌中学校、北中学校入学式	2	
平成22年 4月 9日	バンクーバーオリンピック・パラリンピック報告会（石田選手・久保選手）	1	
平成22年 4月14日	明和大学入学式・開講式	1	
平成22年 4月27日	第1回美幌町教育委員会定例会	4	
平成22年 4月30日	美幌町PTA連合会交流会	4	
平成22年 5月27日	教育関係施設視察(美幌小学校、東陽小学校、学校給食センター)、第2回美幌町教育委員会定例会	4	
平成22年 5月28日	網走管内教育委員会協議会総会（網走市）	1	
平成22年 6月 1日	第1回美幌町高等学校再編対策協議会総会	1	
平成22年 6月15日	第3回美幌町議会定例会	1	
平成22年 6月29日	教育関係施設視察(旭小学校)、第3回美幌町教育委員会定例会	4	
平成22年 7月 1日	教育委員会職員辞令交付式	1	
平成22年 7月 7日～ 9日	北海道市町村教育委員大会・道内視察（札幌市）	12	
平成22年 7月23日	第4回美幌町教育委員会定例会	4	
平成22年 7月23日	美幌町PTA交流会 8校の集い	4	
平成22年 7月26日	第4回美幌町議会臨時会	1	
平成22年 8月31日	教育関係施設視察(美幌中学校)、第5回美幌町教育委員会定例会	4	
平成22年 8月22日	第24回美幌100kmデュアスロン大会開会式	1	
平成22年 9月 6日・ 8日	第6回美幌町教育委員会臨時会（各教育委員宅持ち回り）	4	
平成22年 9月14日	第5回美幌町議会定例会	1	
平成22年 9月28日	教育関係施設視察(北中学校)、第7回美幌町教育委員会定例会	4	
平成22年10月26日	第8回美幌町教育委員会定例会	4	
平成22年10月29日	特定非営利法人美幌町体育協会体育賞表彰式	1	
平成22年11月 3日	美幌町自治・文化・スポーツ功労者等表彰式	1	
平成22年11月18日	教育関係施設視察(福豊小学校)、第9回美幌町教育委員会定例会	4	
平成22年11月26日	第7回美幌町議会臨時会	1	
平成22年11月29日	北見ブロック教育委員研修会	3	
平成22年12月 6日	網走管内市町村教育委員会研修会	3	
平成22年12月 8日	第10回美幌町教育委員会定例会	4	
平成22年12月14日	第8回美幌町議会定例会	1	
平成23年 1月 4日	美幌町新年交礼会	4	
平成23年 1月 9日	美幌町成人の集い	4	
平成23年 1月20日	第11回美幌町教育委員会定例会	4	
平成23年 2月14日	美幌町奨励賞授賞式（一戸誠太郎君）	1	
平成23年 2月20日	一戸誠太郎君全国中学校スケート大会優勝祝賀会	1	
平成23年 2月24日	第12回美幌町教育委員会定例会	4	
平成23年 3月 2日	明和大学卒業・修了式	1	
平成23年 3月 8日～ 9日	第3回美幌町議会定例会	2	
平成23年 3月15日	美幌中学校、北中学校卒業式	2	
平成23年 3月18日	美幌小学校、東陽小学校、旭小学校卒業式	3	
平成23年 3月22日	第13回美幌町教育委員会定例会	4	
平成23年 3月24日	福豊小学校卒業式	1	
平成23年 3月31日	教職員及び教育委員会職員退職者辞令交付式	1	

### (3) 学校教育グループ

#### 平成22年度学校教育グループ総括評価

##### 1. はじめに

平成18年に約60年ぶりの「教育基本法」の改正に伴い、教育全般の課題解決のため、学校、家庭、地域など、社会全体が協力して教育を進めることが重要となっております。

平成23年度からは新しい教育基本法の理念に基づいた「学校教育法」がスタートするため、義務教育の目標新設、各学校の目的・目標の見直し、新たな職の設置などが進められます。

また、「教育職員免許」及び「教育公務員特例法」の改正により、教員免許更新制が導入、指導が不適切な教員の人事管理の厳格化が図られたことにより、学校管理規則の改正などを行い教育課題の解決を図って参ります。

さらには「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正において、教育委員会の責任体制の明確化や体制の充実、地方分権の推進、国、地方の責任の果たし方などが改正され、この理念を具体化するための施策の充実等に取り組んで参ります。

##### 2. 具体的な取組の概括的評価及び改善の方策

###### I 学校教育においては「正しい判断と行動できる児童生徒の育成をはかる学校教育を推進する」という美幌町教育目標が定められています。

これらの方針を基に具体的な取り組みについて述べて参ります。

###### (1) 「自ら学ぶ学習態度の育成と、知性・創造性の啓発を」

平成22年度の主な取り組みとして、引き続き①学校評価を実施し、同時に②保護者アンケートも行き、さらに踏み込んで児童生徒の学校評価についても検討し、広く町民に公表し、今後の学校活動に役立てて参ります。

また、平成22年度から新たに③小学校における外国語活動が実施されるため各小学校において更なる研究活動を行い、学力向上のため④全国学力学習状況調査の活用を図りました。

今後の課題として、町民から①信頼され、開かれた学校、②長期休業中における補習授業の検討、③日常の読書活動の推進をさらに図って参ります。

###### (2) 豊かな心のふれあいを養うとともに、基本的な生活態度の育成を

平成22年度の主な取り組みとして、事件事故に巻き込まれないための①携帯電話、コンピューター等に関する取扱講習会の実施、学校保健安全法による②児童生徒の健康診断を実施しました。

学校における道徳教育は、道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであり、地域社会と連携を図るため③道徳授業の公開実施を行いました。

発達障害を含む障害のある児童生徒を支援するため、学校の要望により④特別支援学級への介助員配置を行いました。また、少人数指導として二人の教員によるT・T（チームティーチング）を引き続き導入し習熟度別教育として、⑤指導方法工夫改善を図りました。

また、近年は普通学級におけるLD、ADHDの疑いのある児童が見られ、その対応として、⑥普通学級における学習支援員（介助型）を学校の要望により配置しました。

今後の課題として、図書傷みが激しいため①学校図書費予算の更なる増額、②学校支援地域本部事業に代わり従来から行っている地域力を活かした学校支援事業の検討、社会教育と連携した子どもだけでなく、保護者・大人も参加できる③長期休業中の体験プログラムの充実検討、④国旗掲揚、国歌斉唱の適切な指導の実施、⑤いじめ問題の継続的取組、⑥放課後子どもプランの検討などとなっております。



### (3) 強じんな精神力・体力の培いを

平成22年度の主な取り組みとして、①全国体力運動能力テストを実施し、その活用を図りました。また、従来から行っている水泳授業、スキー・スケート授業などの②外部講師活用を図りました。

さらに義務教育における③各種スポーツ大会、吹奏楽大会への助成を行い、各種活動の育成と助長を図りました。

今後の課題として、①少年団活動との連携による活用と推進、②冬期スポーツの積極的な取り組み、③新学習指導要領に示されている中学校における武道・和楽器への取り組みが必要となっております。

### (4) 生命を尊重し、健康と安全の理解と習慣形成を

平成22年度の主な取り組みとして、全町的な取り組みである児童生徒の①交通安全指導を随時実施いたしました。

また、非行防止の観点から②街頭指導（お祭り、盆踊り等）を実施し、社会問題化している③不審者対策として引き続き「不審者情報メールの配信」を行い、注意喚起を行っております。

学校における心臓突然死の救命向上のため、引き続き全校に④AEDを整備しております。

今後の課題として、①望ましい家庭教育に向けた情報発信の検討、②学校災害共済制度システムを学校において円滑に実施できるよう進めて参ります。

### (5) 勤労の尊さの理解と、意欲的な態度の育成を

平成22年度の主な取り組みとして、教育課程の①特別活動として、学級会、児童会、クラブ活動、学校行事などを積極的に展開しております。

今後の課題として、①地域と一体となった活動の推進、②外部講師のさらなる活用、③少年団活動との連携などが必要となっております。

## II 教育行政では「美幌町の教育の発展と充実を期する教育行政を推進する」という美幌町教育目標が定められています。

これらの方針を基に具体的な取り組みについて述べて参ります。

### (1) 各学校との連携を密にし、共通の理解に立つ強力な指導体制の確立を

平成22年度の主な取り組みとして、網走教育研修センターなどを活用し①教職員の研修の実施を行っておりますが、参加状況は芳しくありません。さらなる意識改革を図って参ります。

不登校などの教育相談充実のため②教育相談員体制を継続して実施しており、学校、町の児童保護担当、保健師、児童相談所などの関係機関と連携した取り組みを行いました。

特別に支援を要する児童生徒の就学について、個々の事例により情報交換を行う③就学指導委員会を開催し、特別支援学級、特別支援学校などの就学の判断材料としております。

今後の課題として、今まで以上に①誇りと使命感に満ちた信頼される教職員の確保・育成が必要となってきます。また、積極的に②校内研修③指導主事による授業研究協議の推進（A形態：全職員参加型研究協議）を図って参ります。

### (2) 教育環境並びに条件整備の積極的な促進と充実を

平成22年度の主な取り組みとして、引き続き①各学校コンピューター40台を目標に整備を実施いたしました。

なお、学校危機管理マニュアル作成することにより、不測の事態の備えを行っております。また、生活困窮世帯に対して学用品・新入学用品・修学旅行費・体育実技用具費・医療費・給食費を毎年度継続して②就学援助しております。

複式校解消では、教育委員会の基本方針に則り、学校が統合された地域の児童生徒に対して、③統合地区通学費助成を継続実施しております。

す。

今後の課題として、生活困窮世帯に対する①要保護・準要保護就学支援事業の拡充検討、町内1校となった福豊小学校の②複式校解消、建築経年による③教育施設の大規模改修、④教職員コンピュータの更新整備、⑤校舎耐震化の推進、⑥小中学校の適正配置の検討、⑦学校ICT(情報information、通信communication、技術Technology)の環境整備、⑧各小学校のプール水槽塗装改修、⑨各小学校遊具の更新、⑩各小中学校トイレの洋式化などが必要となっております。

### (3) 町の関係各機関及び諸団体との連携強化をはかり、地域ぐるみの教育の展開を

平成22年度の主な取り組みとして、毎年継続している町内に2園ある幼稚園に①私立幼稚園就園奨励費補助、及び園児の教材費、教員の研修費として②私立幼稚園振興補助金により支援しております。

そのほか地域、保護者と一体となって学校教育の発展のため③奨学金制度の見直し、④PTAとの懇談、⑤学校支援地域本部事業実施などに取り組みました。

今後の課題として、近年の経済情勢を反映した使い勝手の良い①地域住民による支援事業の有効活用、②公立高等学校の再編後の支援体制の検討が必要となっております。

## 3. おわりに

平成19年6月に学校教育法が改正され、第42条において学校評価を行い、その結果に基づき学校運営の改善を図り、教育水準の向上に努めることと規定され、第43条においては、学校の情報提供に関する規定が新たに設けられています。

学校の自主性・自律性を高める上で、平成22年度は美幌町内全ての小・中学校で評価及び、保護者アンケートに加え、児童生徒のアンケートなども検討し、教育活動等の成果を検証し、学校運営の改善と発展に取り組んで参ります。

また、学校が保護者・地域の期待に応えるためには、学習指導要領、教育課程など取り組むべき内容の説明責任(具体的例として、何年生の何学期、算数においては足し算と引き算をどのレベルまで進めるのかなどの説明、公表)を果たし、家庭や地域と一体となって連携協力を進めていく必要があります。

美幌町においては、よりよい学校を作り上げるための各組織の整理活用を促進し、教育委員会の活用、学校運営に関する協議の場の設置について検討の必要があります。

学校教育を推進するためには、教職員の責務は非常に大きく、教職員の教育への誇りと使命感に満ち、子どもたちはもとより、広く社会から尊敬され、信頼される質の高さの維持が求められています。

美幌町の目指す教職員像は、子どもたちへの深い愛情、高い人格と豊かな識見、生きる力を育む確かな指導力、自ら学び続ける心豊かな教職員であるために資質の向上を高めることで、子どもたちの資質も向上します。

そのため北海道教育委員会が所管する人事異動において優秀な人材を確保するため、様々な提案を行って参ります。

また、「教職員に求められる資質能力と研修」には、学校の主体性を重視した校内研修の充実、網走教育研修センターの活用、さらには北海道教育委員会義務教育指導班の指導主事による授業の研究協議、意見交換、指導助言を積極的に活用する必要があります。

さらに校長のリーダーシップのもと、豊かな人間性を持った専門性の高い教職員が力を発揮する場面を公開することにより、保護者への説明責任を果たすことになり、地域の理解が得られるものと確信しております。

美幌町の学校教育は、保護者や地域、様々な人々との連携・協働を図りながら、地域に開かれた信頼される学校づくりを目指します。

	事務・事業名	事業の目的・内容	点検・評価	課題等
1 幼稚園 教育の 充実	1. 私立幼稚園就園奨励費補助事業	本町の幼稚園教育は、大谷、藤の私立2園の幼稚園により運営されており、その重要な役割にかんがみ、私立幼稚園の教育条件の維持及び向上を図るとともに、幼児に係る就園上の経済的負担の軽減、健全な発達に資することを目的とし、保護者の所得に応じて補助する。 (対象園児320名、補助金額26,055千円)	本年度についても、小学校3年生までに兄・姉を有する園児も第3子以降の優遇措置の対象とし、一層の負担軽減を図るため補助単価の引き上げを行っている。 この結果、対象園児は321名、補助金支払額は24,512千円となった。	本補助事業は、国の補助事業であり、補助率は1/3となっているが、実際には国の総予算の総枠の中で配分されており、さらに配分率が69.74%となっており、実際の補助金は減額されている状況である。 昨年度の補助金支払額22,928千円であり、平成22年度は1,584千円の増加であった。 近年、少子化の対策として、保護者負担の一層の軽減を図るため拡充がなされているが、これにより町負担の増加が懸念されている。
	2. 私立幼稚園振興補助事業	本町私立幼稚園の果たす重要な役割にかんがみ、教育条件の維持及び向上を図るとともに、私立幼稚園の健全な発達に資することを目的とし、教職員の研修活動及び園児の教材費に対し、その一部を助成する。 (研修費・教職員15名×45,000円、教材費・園児335名×3,600円、合計1,881千円)	本事業は実績報告書から、教職員の研修、研究事業及び、幼稚園教具・教材の充実に役立っており、保育活動に寄与している。 実績は、教職員・園児数の減少により、1,782千円であった。	少子化の影響で、美幌町内では年間200名以下の出生者数であり、今後、減少傾向にある。 幼稚園、保育園、季節保育所、民間保育所では定員割れの恐れがある。 今後は、幼児教育並びに幼児保育の在り方について、美幌町としての様々な施策の調整、検討が必要である。
2 小中 学校 の 教 育 環 境 の 充 実	1. 学校校舎耐震化整備事業	地震防災緊急事業五箇年計画により、昭和56年以前に建設された公立小中学校においては、地震防災上改築及び補強が必要と認められるか判断するため、耐震診断を実施する。	平成19年に旭小学校耐震診断業務委託(委託料3,990千円)を行い、診断結果は、耐震診断指標値を越えており、耐震性は現状で満足されていた。 本町で耐震診断が残されている学校は、東陽小学校校舎の一部(旧校舎であり、現在は用具準備室となっている。)。福豊小学校校舎(木造建築の一部鉄骨校舎部分)。美幌中学校校舎、屋体となっている。 東陽小学校は教室として使用していないため、また、福豊小学校は複式校統合へ向け地域と協議を続けており、耐震診断は実施しない。	残る美幌中学校についての選択肢は、美幌高校校舎(築30年)・校地を北海道から譲渡される方針が示され、平成24年4月1日付け移設に向け取り組む。
	2. 学校教職員コンピュータ整備事業	近年の情報処理技術、通信技術の急速な発展に伴い、教職員相互間のネットワーク化、多岐にわたる事務処理の効率化、省力化を推進し、専用サーバーによる個人情報の管理徹底を図るため、教職員一人1台のコンピューターを更新整備する。	本事業は、平成19年度から町内の小中学校へ導入するため計画的に進められており、平成21年度は当初、旭小学校のみの整備予定であったが、地域活性化・経済危機対策臨時交付金の活用を強く要望した結果、未整備校へ導入することができた。 今後はコンピューターの更新計画により更新する。	各小中学校に対する教職員用PCの整備は、平成21年度において完了しているが、一定の時期には更新が必要となり、同様の財源が必要となる。 また、日進月歩の情報技術の進展により、コンピューターの整備は当然として、インターネットによるレンタルサーバー、授業への活用、個人情報の保護等に引き続き取り組むことが必要である。
	3. 自動体外式除細動器整備事業(AED)	心臓突然死の救命率向上に自動除細動器(AED)の使用の有用性が述べられ、国内の様々な施設でおかれるようになりました。学校管理下での死亡は、毎年200件以上あり、心臓病が70～85%(聖マリアンナ医大調べ)で、激しい運動中におきる突然死はほとんど心臓の異常で、高学年男子に多いとされているため、本町においては各小中学校施設全てに整備し、救命率の向上を図る。	平成19年度に美幌中学校、北中学校を整備し、平成20年度に美幌小学校、東陽小学校、旭小学校、福豊小学校への整備を行い、小中学校については完了した。 ～5年リース～ 中学校(5,145円×2校×12ヵ月=123,480円)h19契約 小学校(3,990円×4校×12ヵ月=191,520円)h20契約	小・中学校全校に整備済みであり、近くの住民が公共施設である学校のAEDを使用することも可能となっている。 町全体でAEDマップ等の作成が課題である。さらに教職員にあっては、救命救急講習の受講などを行っており、緊急時に対応できる体制が構築されており、継続して取り組む。
	4. 教育用コンピュータ整備事業	各教科及び総合的な学習の時間において、コンピューター・インターネット等の積極的な活用の推進を目的として、小中学校に順次整備しているが、本年度は北中学校に21台を新規購入し整備する。 (予算額5,414千円)	本事業は美幌町総合計画に掲げた事業であり、計画的なコンピューターの更新を行っている。 本年度は、平成13年度に導入したコンピューターの更新を行った。 契約金額5,355千円	情報技術の進展により、最低でも5年に一度の更新が必要であり、小学校、中学校合わせた更新は、財政的な負担が大きい。

	事務・事業名	事業の目的・内容	点検・評価	課題等
2 小 中 学 校 の 教 育 環 境 の 充 実	5. 教育相談及び不登校問題相談事業	<p>教育相談事業及び不登校問題相談事業として次の事業に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育相談員2名による教育相談活動</li> <li>・学校、地域及び青少年関係機関との連絡調整</li> <li>・サテライト事業（学習・スポーツ活動・農園作業）</li> <li>・不登校児童生徒の登校意欲を高めるための家庭訪問（町内巡視活動を兼ねる）</li> </ul> <p>（予算額：6,250千円）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育相談は、36件の実績であり、来室が25件、電話が1件、学校訪問8件、家庭訪問2件であった。</li> <li>相談内容は、不登校24件、いじめ3件、進路、学習2件、家庭4件、その他3件など多岐にわたっている。</li> <li>・不登校問題では、サテライト開催205日、家庭訪問103回、電話相談延べ530回、学校訪問88回であった。</li> <li>・その他巡視活動として43回の活動を行った。</li> <li>・不登校の実態は、小学校で4名、中学校で16名の合計20名であった。これらの指導により、登校できるようになった者は12名、継続指導は8名であった。</li> </ul>	<p>継続して教育相談、サテライト事業（相談室において軽スポーツ、英会話、教科学習など）、学校訪問などを行っているが、学校、相談室の対応だけでは解決しない場合もあり、町の児童保護担当、民生児童委員、児童相談所、警察等との協力関係を更に深める必要がある。</p>
	6. 小中学校保健事業	<p>小中学校の児童生徒及び教職員の健康診断等の学校保健事業を行う。（予算額：7,982千円）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校医、学校歯科医、学校薬剤師による学校保健管理</li> <li>・児童生徒に対する定期健康診断（結核対策含む）</li> <li>・就学時健康診断</li> <li>・教職員に対する定期健康診断</li> <li>・日本スポーツ振興センター負担金（災害共済給付制度）</li> </ul>	<p>心臓検診は、小学校1年生と中学校1年生が対象で、377件の実績であり、内精密検査対象者は14名であったが、精密検査の結果、異常ありとされた者1名（専門医受診済）、異常なし6名、経過観察7名であった。</p> <p>ぎょう虫検査は、小学校1～3年生が対象で546名の実績であり、受診者全員が陰性であった。</p> <p>尿検査は、児童生徒の全員が対象で、1,818名の実績であり、陽性者は206名で内訳は蛋白が94名、潜血が126名であった。（14名重複）</p> <p>結核検診は、1,671名の実績であり、精密検査対象者は無かった。</p> <p>眼科検診は、小学1年生と4年生363名に実施し、異常なしは283名、眼位異常・視力低下などの症状がある者は80名であった。</p> <p>各検査の事後措置として、各学校において保護者に指導を行うとともに、専門医の受診を促した。</p> <p>教職員の健康診断は、公立学校共済組合の指定の38名は人間ドック、脳ドック、婦人ガン、大腸ガン等を行い、その他の教職員84名は町実施の人間ドックを行った。</p> <p>検査結果については、学校長から再診等の指導を行っている。</p>	<p>児童・生徒は学校安全保健法による検診を行っており、特に課題は見当たらない。</p> <p>教職員にあっては公立学校共済組合の人間ドック対象者は限られているため、学校保健の観点、福利厚生観点など経費負担について、財政的措置を望む。</p>
	7. 小学校プール改修工事	<p>小学校における児童プールの老朽化により、鉄骨部分からの塗膜片の落下が見受けられたが、上屋鉄骨部分、水槽の塗装改修工事を行うことにより、大幅な授業環境の整備が図られる。</p>	<p>本事業は、上屋鉄骨部分の塗装改修については、地域活性化・経済危機対策臨時交付金を活用することにより整備されたが、水槽については未整備である。</p> <p>契約金額 21,682千円 東陽小学校、旭小学校</p>	<p>プール設備については、塩素を使用しているため、設備の腐食等については避けられないところがある。シーズン終了時には入念な清掃が必要である。</p> <p>また、今後についてはプール水槽部分についても同様に塗装改修工事が必要である。</p>

	事務・事業名	事業の目的・内容	点検・評価	課題等
3 小 中 学 校 の 教 育 育 内 容 の 充 実	1. 地域副読本（小学校）の作製	平成23年度からの新学習指導要領の完全実施に合わせ、小学校3、4年生の社会科授業で使用する地域副読本の作製を行う。 ・編集委員会の開催 ・副読本印刷製本費 (予算額：3,055千円)	新学習指導要領に基づいた社会科の地域学習を行うための地域副読本の編集・作成ができた。（4年間使用） 編集委員会の開催 10回 副読本印刷製本 1,300冊	地域に見られる社会的事象を具体的に学習し、地域の社会生活を総合的に理解することができるよう活用していく。
	2. 外部講師学習行事負担金	特に、児童生徒の能力差が生じる体育科（水泳・スケート・スキー）を中心に外部講師を依頼し、グループ別によるきめ細かな指導を実施する。 (予算額：665千円)	平成14年度から実施されており、水泳では43時数、児童数延べ2,303名、講師延べ76名の実績。 スキーでは48時数、児童・生徒数延べ3,431名、講師延べ128名の実績。 スケートでは31時数、児童数延べ1,707名、講師数延べ47名の実績となった。	外部講師は、教職員の技術不足を補うもので、今後とも継続して取り組んでいきたい。 本事業は児童生徒、保護者、学校から大変好評得ていますが、年々、指導者の確保が難しくなっており、学校要望に十分応えることができないものがあった。 今後も、学校を支援する地域指導者の確保等に取り組む必要がある。
	3. 語学指導外国青年招致事業	中学校の英語授業指導のために外国青年（AET）を配置する。 ・中学校は2週間毎に両校へ配置。 ・小学校は随時派遣する。 ・長期休業中は保育園へ派遣する。 ・氏名：平成21年8月から ダンロップ・ディビッド・ポール (予算額：731千円)	主に中学校の英語指導の他、小学校、保育園、不登校生徒のサテライト授業としての英会話、町内の各種団体への英語活動を行っている。 小学校への派遣 200時数 保育園 // 19時数 サテライト // 11時数	新学習指導要領への移行措置期間として、小学校における外国語活動にAET派遣を行った。今後は、新学習指導要領の完全実施に対応した体制強化に取り組む必要がある。
	4. 小中学校特別支援学級等への介助員の配置 (美幌小学校・東陽小学校・旭小学校・北中学校)	小学校では、美幌小学校、東陽小学校、旭小学校の特別支援学級に各1名の介助員を配置するとともに、旭小学校には通常学級に1名を配置した。 中学校では、北中学校の特別支援学級に1名の介助員を配置した。 今後とも学校生活支援を行うとともに通常学級との交流学習を促進する。 ・配置人数：5名 ・雇用形態：学期毎の雇用  (介助員賃金予算額：6,210千円)	特別支援学級の設置は、3小学校で11学級、2中学校で6学級となり、美幌小学校1名、東陽小学校1名、旭小学校2名（内1名は通常学級配置）、北中学校1名の介助員を配置し、学校生活支援を行うとともに通常学級との交流学習を促進した。 各学校の学年別在籍児童生徒の状況は次のとおりである。	教員の配置基準では、特別支援学級1学級に8名の児童に対し1名の教員の配置となっているが、障害を持つ子の親ができる限り通常学級で学ばせたいといった願いも理解した上で、介助員を配置した。 今後も一人一人の障害の状態に合わせた教育的支援のため、必要に応じて配置していきたい。 普通教室に在籍するLD、ADHDなど発達障害の疑いのある児童への支援員の配置は、校内体制の中でチームティーチングの活用等で対応することとしているが、必要に応じて対処していきたい。
	5. 学校支援地域本部事業	多忙な教員の負担軽減と地域の教育力向上を図るため、学校支援ボランティアを活用した学校支援地域本部事業を実施する。 ・学校支援地域本部会議（地域教育協議会）の開催 ・学校支援ボランティアの集約 ・学校要望と学校支援ボランティアの調整	教育委員会職員において、地域ボランティアの募集（地域人材リストの作成）、外部講師授業の調整など既存の学習支援活動を中心に事業を実施した。 ・学校支援地域本部会議の開催（2月28日）	学校側に地域力を積極的に活用しようとする意識が醸成されていないことから、支援要望までいらない状況である。できる支援をできる範囲で実施することを目標に、既存の学校ボランティアの取り組みを拡充しながら学校の要望をしっかりと把握し継続的に取り組む。

	事務・事業名	事業の目的・内容	点検・評価	課題等
3 小 中 学 校 の 教 育 内 容 の 充 実	6. 小学校吹奏楽等大会参加負担金	<p>小学校が参加する吹奏楽大会等への参加費用を負担し、各種活動の育成と助長を図る。 (吹奏楽等大会参加負担金予算額：1,111千円)</p>	<p>北見地区吹奏楽コンクール(北見市) 美小・東陽小合同 50名 小学校バンドフェスティバル北見地区大会(北見市) 美小・東陽小合同 48名 北海道吹奏楽コンクール(札幌市) 美小・東陽小合同 48名 北海道小学校バンドフェスティバル(旭川市) 美小・東陽小合同 46名 オホーツク管内小学校バンドフェスティバル北見大会 美小 33名 東陽小 18名 北見地区管打楽器アンサンブルコンクール(北見市) 美小 8名 〃 東陽小 8名 北海道管楽器個人アンサンブルコンクール(札幌市) 美小 8名 負担金額 2,314千円</p>	<p>負担金要綱により参加費用を負担しているが、同一の大会が数多くあり、財政状況が厳しいおり、複数の大会への全額負担は難しくなっている。 自己負担と公費負担の見直し、全国大会の限定など要綱の見直しが必要となっている。</p>

	事務・事業名	事業の目的・内容	点検・評価	課題等
3 小 中 学 校 の 教 育 内 容 の 充 実	7. 中体連・吹奏楽等大会参加負担金	<p>中学校が参加する中体連・吹奏楽等への参加費用を負担し、各種活動の育成と助長を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中体連大会参加負担金 4,370千円 (予算額)</li> <li>・吹奏楽大会参加負担金 1,110千円 (予算額)</li> <li>・英語暗唱大会負担金 6千円 (予算額)</li> </ul>	<p>&lt;中体連等&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地区大会 16種目</li> <li>全道大会 10種目</li> <li>全国大会 3種目</li> <li>網走地区中学校軟式野球大会(網走・大野) 美中17名</li> <li>〃 北中25名</li> <li>網走地区中学校バレーボール大会(美幌町) 美中20名</li> <li>〃 北中13名</li> <li>網走地区中学校剣道大会(北見市) 北中 1名</li> <li>網走地区中学校陸上競技大会(網走市) 美中25名</li> <li>〃 北中16名</li> <li>中学校通信陸上オホーツク大会(北見市) 美中17名</li> <li>〃 北中 9名</li> <li>網走地区中学校サッカー大会(美幌町) 美中18名</li> <li>〃 北中20名</li> <li>網走地区中学校ソフトボール大会(遠軽町) 北中21名</li> <li>網走地区中学校バスケットボール大会(美幌町) 美中32名</li> <li>〃 北中32名</li> <li>全日本中学校通信陸上オホーツク大会 美中25名</li> <li>〃 北中16名</li> <li>網走地区中学校弓道大会(北見市留辺蘂) 美中33名</li> <li>網走地区中学校ソフトテニス大会(北見市) 美中21名</li> <li>〃 北中40名</li> <li>網走地区中学校卓球大会(網走市) 北中22名</li> <li>国体ソフトテニス北海道ブロック予選会(北見市) 美中 2名</li> <li>北海道中学校陸上競技大会(函館市) 美中 3名</li> <li>〃 北中 5名</li> <li>北海道中学校女子ソフトボール大会(倶知安町) 北中18名</li> <li>全日本中学校陸上競技選手権大会(鳥取) 美中 1名</li> <li>全国中学校弓道大会(東京都) 美中 1名</li> <li>北海道中学校新人陸上競技大会(室蘭市) 美中 6名</li> <li>〃 北中 2名</li> <li>網走地区中学校駅伝競走大会(北見市) 美中 8名</li> <li>〃 北中16名</li> <li>北海道中学校駅伝競走大会(深川市) 美中 8名</li> <li>〃 北中 8名</li> <li>北海道中学生インドアソフトテニス選手権大会(札幌市) 美中 2名</li> <li>北海道中学校バスケットボール新人大会道東大会(帯広市) 北中24名</li> <li>北海道中学校バスケットボール新人大会決戦大会(札幌市) 北中24名</li> <li>〃 北中24名</li> <li>網走地区中学校スキー大会アルペン(北見市) 美中 3名</li> <li>網走地区中学校スキー大会カカン(遠軽町) 美中16名</li> <li>網走地区中学校スピードスケート大会(美幌町) 北中 4名</li> <li>北海道中学校スケート大会(帯広市) 北中 4名</li> <li>北海道中学校スキー大会カカン(札幌市) 美中10名</li> <li>北海道中学校スキー大会アルペン(歌志内市) 美中 1名</li> <li>全国中学校スケート大会(長野県) 北中 3名</li> <li>負担金額 6,695千円</li> <li>&lt;吹奏楽&gt;</li> <li>北見地区吹奏楽コンクール(北見市) 美中33名</li> <li>〃 北中24名</li> <li>北見地区管打楽器アンサンブル(北見市) 美中 5名</li> <li>〃 北中 9名</li> <li>負担金額 188千円</li> </ul>	<p>負担金要綱により参加費用を負担しているが、同一の大会が数多くあり、財政状況が厳しいおり、複数の大会への全額負担は難しくなっている。</p> <p>自己負担と公費負担の見直し、全国大会の限定など要綱の見直しが必要となっている。</p>

	事務・事業名	事業の目的・内容	点検・評価	課題等																																								
4 小中学校児童生徒への就学支援	1. 要保護標準保護児童生徒就学援助費	<p>生活困窮世帯に対し、学用品・新入学用品・修学旅行費・体育実技用具費・医療費・給食費を扶助する。 歳入：要保護児童生徒就学援助費補助金(基準額の1/2補助) 特別支援教育就学奨励費補助金(基準額の1/2補助)</p> <p>予算額 (単位：千円)</p> <table border="1" data-bbox="432 323 813 416"> <thead> <tr> <th>22年度</th> <th>要保護</th> <th>標準保</th> <th>計</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学校</td> <td>12名</td> <td>127名</td> <td>139名</td> <td>9,647</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>5名</td> <td>63名</td> <td>68名</td> <td>7,489</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>17名</td> <td>190名</td> <td>207名</td> <td>17,136</td> </tr> </tbody> </table>	22年度	要保護	標準保	計	合計	小学校	12名	127名	139名	9,647	中学校	5名	63名	68名	7,489	計	17名	190名	207名	17,136	<p>決算額 (単位：千円)</p> <table border="1" data-bbox="1104 260 1485 352"> <thead> <tr> <th>22年度</th> <th>要保護</th> <th>標準保</th> <th>計</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学校</td> <td>15名</td> <td>145名</td> <td>160名</td> <td>10,371</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>8名</td> <td>75名</td> <td>83名</td> <td>8,033</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>23名</td> <td>220名</td> <td>243名</td> <td>18,404</td> </tr> </tbody> </table>	22年度	要保護	標準保	計	合計	小学校	15名	145名	160名	10,371	中学校	8名	75名	83名	8,033	計	23名	220名	243名	18,404	<p>美幌町における全児童・生徒数は年々減少傾向にあるが、受給者率は増加傾向にあり、平成13年度の全体に占める割合は5.39%であったが、平成22年度は14.52%であり、給付額では平成13年度8,928千円であったものが平成22年度は18,404千円となっており、町財政が厳しいおり基準額の見直し検討が必要である。</p>
	22年度	要保護	標準保	計	合計																																							
小学校	12名	127名	139名	9,647																																								
中学校	5名	63名	68名	7,489																																								
計	17名	190名	207名	17,136																																								
22年度	要保護	標準保	計	合計																																								
小学校	15名	145名	160名	10,371																																								
中学校	8名	75名	83名	8,033																																								
計	23名	220名	243名	18,404																																								
2. 統合地区等通学費補助金	<p>小中学校の統合地区からスクールバス区域以外の民間路線バスを利用している児童生徒の交通費を全額補助する。(定期券を交付する。)</p> <p>遠距離通学者の通学経費の一部を助成し保護者の負担軽減を図る。(負担基準：小学生4km以上1万円 中学生6km以上1万2千円)</p> <p>予算額</p> <table border="1" data-bbox="432 563 857 679"> <thead> <tr> <th>統合地区通学費</th> <th>小学生</th> <th>46名</th> <th>3,499千円</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中学生</td> <td>24名</td> <td>4,331千円</td> </tr> <tr> <th>遠距離通学費</th> <th>小学生</th> <th>5名</th> <th>40千円</th> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>1名</td> <td>6千円</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td></td> <td>7,876千円</td> </tr> </tbody> </table>	統合地区通学費	小学生	46名	3,499千円	中学生	24名	4,331千円	遠距離通学費	小学生	5名	40千円	中学校	1名	6千円	合計			7,876千円	<p>決算額</p> <table border="1" data-bbox="1104 451 1529 568"> <thead> <tr> <th>統合地区通学費</th> <th>小学生</th> <th>44名</th> <th>2,576千円</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中学生</td> <td>22名</td> <td>3,331千円</td> </tr> <tr> <th>遠距離通学費</th> <th>小学生</th> <th>6名</th> <th>40千円</th> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>1名</td> <td>6千円</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td></td> <td>5,953千円</td> </tr> </tbody> </table>	統合地区通学費	小学生	44名	2,576千円	中学生	22名	3,331千円	遠距離通学費	小学生	6名	40千円	中学校	1名	6千円	合計			5,953千円	<p>複式校解消にかかる基本方針に則り、小・中学校の統合地区からスクールバス区域以外の民間バス路線を利用している児童・生徒の交通費の全額補助を継続していく。</p>					
統合地区通学費	小学生	46名	3,499千円																																									
中学生	24名	4,331千円																																										
遠距離通学費	小学生	5名	40千円																																									
中学校	1名	6千円																																										
合計			7,876千円																																									
統合地区通学費	小学生	44名	2,576千円																																									
中学生	22名	3,331千円																																										
遠距離通学費	小学生	6名	40千円																																									
中学校	1名	6千円																																										
合計			5,953千円																																									
5 高等学校教育の充実	1. 美幌町高等学校再編対策協議会負担金	<p>本町の未来を担う人材育成及び、高校教育の充実した教育環境を確保するため、美幌高等学校及び美幌農業高等学校の再編問題について、町内有識者による必要な活動を行うことを目的とした「美幌町高等学校再編対策協議会」の運営費用を負担する。</p>	<p>昨年度に引き続き「美幌町高等学校再編対策協議会」を開催し、意見を伺った。 要望活動についても、道教委から一定の回答をいただき、平成23年度に両校一斉統合することとなった。 目途が立ったことにともない、承認を得て協議会を解散した。(平成22年6月1日 解散)</p>	<p>現在二校ある高等学校を一枚に統合することについて跡地の利用については義務教育施設として町への譲渡など5項目の要望を行っていたが、道教委から美幌高校校舎及び敷地を無償譲渡する旨の回答を得た。 今後とも、道教委への要望、協議をして参りたい。</p>																																								
6 奨学金制度の充実	1. 奨学金基金の運用について	<p>本町の平成22年度末奨学金基金の残高は、48,937千円であり、その内現金は37,168千円。貸付金額は11,769千円で件数は34件となっている。</p>	<p>この奨学金は他の奨学金と重複出来ない制度であり、日本学生支援機構などの奨学金を受けることができない場合の補完的な奨学金の役割を果たしている。 本年度は、奨学金貸与を希望する方に利用しやすく、無理のない返済とするために奨学金制度の改正を行った。(平成23年4月1日 施行) ・貸与金額: 高校 9,000円/月、大学 25,000円/月 ・返済方法: 貸与終了した翌月の6ヶ月後から10年以内</p>	<p>滞納者対策として、戸別訪問、督促状発布などで督促を行っているが、平成22年度末の未収金額は1,958千円、10件となっている。 引き続き本人はもとより、保証人に請求し、粘り強く督促を行う。</p>																																								



## (4) 社会教育グループ

### 平成22年度社会教育グループ総括評価

#### 1. はじめに

社会教育に係る各種事業は、社会教育委員をはじめ社会教育関係委員により策定された「第5次美幌町社会教育中期計画」（平成18年度～平成22年度）を基に取り進めています。「うるおいある幸せなまちをめざして」家庭・学校・地域社会が連携し、地域住民、学校、関係団体等の協力を得て、各種事業に取り組んで参りました。

事業の反省・評価については、社会教育委員の会議で年間事業計画を、年度末には反省・評価を協議し承認を得ているところであります。青少年健全育成事業は、「地域の子どもは地域で育てる」の下、関係機関・団体の連携と協力により巡視活動を実施し、その活動の輪は他の団体や地域にも広がってきています。

#### 2. 具体的な取組の概括的評価及び改善の方策

##### 社会教育事業関係

##### ◎乳幼児に対する事業

- ・ 乳幼児に関する事業は、子育て支援センター等の関係機関等と連携を図り取り進めています。「フレッシュママセミナー」は、定員に近い参加があり、子育て中の母親のニーズが高まっているといえます。兄弟姉妹を伴っての参加が増加していることから託児面での充実を必要としています。「親子ですくすく教室」では、参加者の減少が見られますが、父親参加のプログラムには半数以上が家族で参加するなど教室の充実が図られています。
- ・ 家庭教育学級は、幼稚園単位で開設され保護者による運営委員会により主体的に運営されています。小学校入学前の保護者の学習の場として効果的な学習プログラムとなるよう支援を行います。

##### ◎児童生徒に対する事業

- ・ 教育委員会では「教育資源リスト」を作成し、芸術・文化活動やスポーツ、野外活動の指導者が学校教育活動の支援を行う体制を整えています。22年度においても、学校が求める人材を紹介し授業に成果をあげており、今後も積極的な活用が期待されます。
- ・ 児童に対する体験事業は、屋外活動では定員を超える参加となっていますが、屋内活動に参加状況のばらつきが見られます。保護者に対して体験活動の必要性をPRしながら参加者の拡大を図ることが重要といえます。
- ・ 中学生対象のハートフルサポートセミナーは、ボランティア活動の学習の場として例年開催していますが、22年度は参加者が集まらず中止となりました。今後、中学校と連携した実施体制の整備が必要といえます。
- ・ 高校生「つみきサークル」は、異なる高校の生徒同士の交流は勿論のこと、自らが研鑽に励みながら自主活動として取り組んでいます。特に子ども対象事業に、お兄さん・お姉さんとして積極的に参加し、その役割は大きいものがあります。高校生の人格形成だけでなく将来のボランティア活動や青年活動の担い手として期待されています。

##### ◎町民に対する事業

- ・ マナビティーセンターは、文化・芸術活動のための拠点として54サークルが活動しています。活動の輪を町民に広げ、更に会員の増加を図るため、小学生を対象とした「キッズカルチャークラブ」の開設、町民を対象とした「サークル開設講座」を開催し、更にPTA行事への指導協力等、自ら培ったノウハウにより町民還元活動を行う等、開かれたサークル活動を実施しています。
- ・ 文化・芸術活動者の減少が見られることから、講座数の増やすなどにより活動の充実と支援を進めます。

##### ◎高齢者に対する事業

- ・ 明和大学は、高齢者が自ら学び、活動する場として、その期待は大きいものがあります。
- ・ 平成22年度は、入学者定員（30名）に対し入学者も同数となりましたが、近年減少傾向にあります。今後も学習要望の変化を的確

- に捉えながら、魅力ある授業内容の検討をするとともに、学生の協力を得ながら学生募集を図ることとします。
- ・ また、明和大学卒業・修了生による「友の会」活動に対して積極的な支援をおこなっています。

#### ◎各種団体に対する事業

- ・ 文化連盟、PTA連合会、自治会連合会女性部会・青少年部会の各団体と連携を図りながら、共催事業の実施や支援に取り組みました。また、修養団美幌会からの依頼を受け、3泊4日の青少年キャンプの指導にもあたっています。今後も各団体の自主性を尊重しながら団体活動の充実のための支援を行います。

#### ◎社会教育活動奨励員に関すること

- ・ 30名の社会教育活動奨励員は、社会教育事業への提案、提言とともに、自らが事業の企画、運営を行っています。社会教育事業に活力を与えるリーダーとして重要な役割を担っており美幌町の社会教育の担い手として期待されます。
- ・ 平成22年度は、体験活動、子育て支援、異世代交流の3部会において、児童に対する体験活動や子育て中の母親に対する事業を行い、参加者の視点に立った運営により事業の充実が図られました。

#### ◎施設整備に関すること

- ・ (仮称)文化ホール建設に向けて、平成23年明け早々に建設工事がスタートしました。東日本大震災の影響の懸念はありますが、順調な事業進捗で経過しております。平成24年11月のオープンをめざし、記念事業などの本格的な準備段階の時期を向かえます。文化連盟などをはじめ関係団体など多くの町民と共に取り組んで参ります。

#### 青少年育成センター関係

- ・ 青少年健全育成団体・機関の連携と協力の下、巡視、声かけ運動を実施し、子どもたちに安全安心に取り組んできました。
- ・ 小中学校の始業日、終業日の声かけは、美幌町独自の取り組みで、地域安全パトロール隊リトルウィング（青少年育成協議会、青少年育成センター、警察署補導員、民生児童委員、護老子）の活動として取り組んでいます。自治会防犯部等他団体も参加され更に大きな輪へと広がっています。
- ・ 中学校通学路等の巡視活動は、指導員と中学生の活動に高校生リーダー、更には民生委員児童委員も加わり異世代による交流も含めた自らの地域を見直す活動となってきています。
- ・ 青少年を非行・犯罪から守るため、青少年育成協議会をはじめ青少年健全育成関係団体との連携を図り、安全・安心のまちづくりの充実を図りました。
- ・ 電話聞き役ホットラインは、子どもの悩める心の聞き役として開設しています。

### 3. おわりに

社会教育事業は、町民一人一人が主体的に各団体やサークルに参加し、その成果を地域に活かされることをめざしています。これまでの活動を通じ、各団体やサークルの主体性は培われていますが、学習者の高齢化や固定化が進んでいます。特に芸術文化の面で、この傾向が顕著となっており、若い人への芸術文化の伝承が課題となっていることから、文化団体や各サークルが共通の課題として活性化策を取り組む必要があります。

青少年教育は、次代を担う子どもたちに体験的な活動を通じて、自ら考え主体的に判断し、よりよく問題を解決する力、豊かな人間性の「生きる力」を育み助長していくことを目的としています。事業への参加者を拡大するため、保護者の理解を深めることも重要な課題といえます。

明和大学は、高齢者の学習・交流の場として開校されていますが、入学者の減少傾向がみられることから、現状の分析と学習内容の充実を図ります。

次代を担う青年がいきいきと輝きながら活動することは町の活力の源であることから、青年層の組織化が求められています。平成22年度より青年団体の組織化が準備されており、十分な準備と働きかけのもとに組織化が進むことが期待されます。

「子どもみまもり隊」への登録者が2,434人を数え、地域に根ざした青少年健全育成の取り組みが行われています。子どもたちの安全を守る地域の取り組みの継続発展が期待されます。

	推 進 項 目	事 業 名	期 日	場 所	対 象 (募集人員)	参加人員	反 省 ・ 評 価
すくすく育む子どもの学び	家庭教育に関する学習機会づくり 幅広い体験学習機会の充実 家庭・学校・地域社会が一体となった青少年健全育成の推進	1. 子育てセミナー フレッシュママセミナー	① 6月4, 11, 18, 25日 ・ 7月2日 (計5回)  ② 1月14, 21, 28日, 2月4, 10日 (計5回)	子育て支援センター、 コミュニティセンター トレーニングセンター、 しゃきっとプラザ	4ヶ月～1歳までの 乳児と母親 (15組の親子)	① 12組 24名 延46組 92名 ② 15組 30名 延65組 130名	各回ともほぼ定員に近い申込があり、参加者の事業に対するニーズが高いこと、対象となる方に対して本事業が定着していることが伺えた。今年度もスポーツ振興グループ・保健福祉グループ・子育て支援センターと連携し充実した事業展開ができたが、兄弟姉妹を伴っての参加も多くなり、託児面で保育士有資格者の増員（現行1名）など、柔軟な対応が必要となっている。
		2. 子育てセミナー 親子ですくすく教室	10月28日 11月7, 12, 16, 24日 (計5回)	子育て支援センター しゃきっとプラザ マナビティーセンター トレーニングセンター	2歳～3歳までの 幼児と母親 (15組の親子)	7組14名 延25組 54名	参加者数が定員の半数にとどまったほか、回を重ねるごとに参加者が少なくなっていったのが大変残念であった。父親参加のプログラムでは半数以上のご家族に参加していただき、親子ふれあいの時間を持つことができた点は有意義であった。内容等の見直しを図り、1組でも多くの参加に結びつけていきたい。
		3. サークル開設講座 わんぱく教室	6月22, 29日 7月6日 (計3回)	マナビティーセンター	乳児～就学前までの 子どもと親 (15組の親子)	7組15名 延15組 31名	わんぱく広場主管により実施したが、4組の参加者から継続活動の希望があり、サークル活動の充実も期待できる。今後は外部講師の活用等、講座内容充実に向けてサークルと協議していきたい。
		4. 幼稚園家庭教育学級	4月21日～12月13日	2 幼稚園等	幼稚園児の親	延676名	2学級それぞれで主体的な運営がなされた。次年度もより母親が参加しやすいよう、両学級の学級長を中心に連絡を密に取りながら取り進めていくこととした。
		2園スポーツ交流会	10月19日	トレーニングセンター		64名	今年度は新しい種目として室内雪合戦を取り入れたが、大きな混乱もなく進めることができた。次年度も、お母さん方の要望をもとに内容を組み立てていくこととした。
		家庭教育学級合同学習会	2月21日	マナビティーセンター		37名	当初11月の実施を予定していたが、取り組みの遅れから実施時期が大幅にずれ込み、両園の行事等にも影響を及ぼしてしまっただけでなく、当初計画に基づいて幼稚園も日程を立てているため、計画どおりに取り進めていくこととした。
		5. 子育てに関する啓発・要望把握 子育てカレンダーの配布	通年		第一子が生まれた親	90冊	昨年度、社会教育活動奨励員（子育て支援部会）で内容の見直しを行った。カレンダーは新生児訪問の際に保健師より配布している。
6. 子ども会活動の側面援助	4月～3月	全町	地域子ども会	活動～11 子ども会 (子ども会 入会数)	自治会連合会青少年部会による活動の活発化を図るため、事業へ支援を行った。		
7. 子どもちょっと体験教室 (社会教育活動奨励員体験活動部会主管 事業)						職業観や社会性を身につけるための事業を全3回を実施した。学校の社会科見学で取り上げてない企業への見学や、毎回好評を得ている列車の乗車体験を実施した。それぞれの事業において、子どもたちの興味関心を引き出す内容で実施することができた。実施ごとに比較的多くの参加者を得ることができており、事業の定着化が進んでいる。	
① 石材屋さんのお仕事を知ろう	5月29日	大一石材		26名			
② 列車に乗って旅にしようパート3	7月25日	北見市 (ホツツ木のプラザ)	小学生 (各30名)	28名			
② 木材工場のお仕事を知ろう	9月18日	丸玉産業津別工場		24名			

	推 進 項 目	事 業 名	期 日	場 所	対 象 (募集人員)	参加人員	反 省 ・ 評 価
すくすく育む子どもの学び	家庭教育に関する学習機会づくり 幅広い体験学習機会の充実 家庭・学校・地域社会が一体となった青少年健全育成の推進	8. 子どもチャレンジクッキング (社会教育活動奨励員異世代交流部会主管事業) ①どら焼きをつくる ②桜餅をつくろう	6月19日 2月19日	しゃきつとプラザ	小学生(各20名)	19名 13名	いずれも、定員を上回る参加を得て、大変充実した内容となった。 ひもの結び方、物の包み方、お茶の入れ方等生活に必要な技術を身につけることができた。 おやつづくりを楽しむことにより、「食」への関心を高めることができた。
		9. 通学合宿	9月26日～10月1日 (5泊6日)	地域用水広報館等	小学4～6年生 (18名)	14名	参加者自らが生活に関することすべてを行い、集団生活における協調性や、生きる力を養うことを目的に事業を実施している。今回は円館氏を講師に招き星空観察(曇天のため室内学習となった)を行うなどその他のプログラムの充実も図った。
		10. サークル開設講座 (夏休み子ども教室) 親子陶芸教室	10月23日	マナビティーセンター	小学生の子どもと親 (7組の親子)	6組12名	陶芸サークル昼の部の指導により、子どもたちに体験の場を提供する機会となった。今後も子どもの体験機会を増やせるよう、多くのサークルに取組の奨励をしていきたい。
		11. 第8回おもしろ科学の祭典 inびほろ 科学実験ブース 2カ所 展示ブース 2カ所 主催:美幌科学の祭典実行委員会	8月28日	美幌小学校体育館	小中学生	400名	60名を超える美幌町民で組織された美幌科学の祭典実行委員が中心となり、準備・運営にあたり多くの参加者を得て、科学へ興味を喚起すると共に、地域の大人と子どもがふれあう事業を実施することができた。 今回は、北海道大学の学生有志の方による珊瑚の展示など目新しいブースも展開できた。
		12. コミュニティスクール 美幌小学校コミュニティスクール 東陽小学校コミュニティスクール 旭小学校コミュニティスクール 福豊小学校コミュニティスクール	通年	主に小学校	小学校区内の子どもと大人		小学校区毎の運営委員会の主体的な事業運営により、美幌小学校「親子でお正月を楽しもう」、東陽小学校「ひまわりロード」、旭小学校「運動会・ベタンク教室」、福豊小学校「もちつき大会・スキーレク」等を実施した。地域の子どもは地域で育てる観点から、今後さらなる充実を図る。
		13. 教育講演会 「食べ物語る～食品業界から見た食育～」 講師 (株)永谷園品質保証室長 増田尚弘氏	2月25日	マナビティーセンター	町民	67名	P T A連合会と共催しP T A役員研修会を兼ねて開催した。また、自治会連合会女性部会も共催となり、様々な立場・年代の方々が食品企業の視点からの「食」についてを学び、子どもたちへの食育の大切さを考えることができた。
		14. 「ふるさとガイド!きたみシュラン」 ～探せ!ふるさと五つ星～ (北見地区広域社会教育推進協議会 主催事業)	① 9月14日 ② 1月30日	置戸町 訓子府町	小学4～6年生 (10名) 1市4町全体で 60名	37名 内美幌町7名 32名 内美幌町7名	美幌町・北見市・津別町・置戸町・訓子府町の子どもたちが一堂に会し、雄大な自然環境の中で置戸～訓子府間のサイクリングやスノーシュー体験を行った。実施初年度の事業であったが、夏季・冬季続けての参加者も多く、本事業への期待が大きいことも伺えた。他市町の参加者との交流も深められ、充実した内容であった。今後は多くの参加者が得られるよう、さらなる内容充実とPRの工夫を図りたい。
		関連事業	・ハートフルサポートセミナー ・キッズカルチャークラブ	わくわく広げるボランティア活動で記載 〃			

	推進項目	事業名	期日	場所	対象 (募集人員)	参加人員	反省・評価
わくわく広げるボランティア活動	ボランティアに関する学習 機会の充実  地域活動や団体・サークル 活動への参加奨励	1. ハートフルサポートセミナー	2月10日～12日 (1泊2日+1日)	マナビティーセンター 町内保育園 あさひデイサービス センター	中学生(20名)	中止	公益財団法人修養団並びに当別町より講師を招き、内容を充実して実施を予定していたが、参加募集の結果実施に至るまでの参加者を得ることができなかった。次年度は全面的に見直し、参加者にとって魅力ある事業展開を行うこととしたい。
	達成感の得られるボランティア活動の支援	2. つみきサークルの育成 (高校生リーダー養成講習会)	通年	マナビティーセンター 他 町内	高校生	延28名	講習会については、つみきサークル会員個々の学業・部活動等の要因により実施が予定回数に満たなかった。その中でも学習の機会を利用し、高校生リーダーとしての心構えや、知識・技術を学び、活動に活かしていけるよう熱心に事業に参加していただいた。今年度は1名に高校生リーダーの認定を行った。
		3. YMC Aジュニアリーダー 養成キャンプ派遣	8月1日～6日 (5泊6日)	津別町	高校生(2名)	派遣中止	対象となるつみきサークル会員の日程が合わず派遣に至らなかった。研修として貴重な場であるので、早期に周知を図るなど対応を検討したい。
		4. キッズ・カルチャー・クラブ 日本舞踊 日本舞踊藤間流藤光会 茶道 日本茶華道連盟 陶芸 陶芸サークル七輪の会 ステンドグラス ステンドグラスサークル 七宝焼 びほろ七宝焼サークル 将棋 個人(社会教育活動奨励員)	4月～3月	マナビティーセンター	小学生	延57名	5サークル1個人に実施していただいた。今年度から日本舞踊を実施していただいているが、参加者が少数にとどまった。地域の人が子どもたちに伝統文化等を育む講座として今後も各団体・サークル等へ取り組みの奨励を行いたい。
		5. マナビティーセンター利用 サークルの育成援助	通年	マナビティーセンター	サークル会員	54サークル	活動の成果を活かし、子どもの体験活動や普及・奨励活動に積極的に取り組むサークルが増えている。
		6. 美幌町自治会連合会女性部会の 活動援助	通年	町内関係施設			専門委員会毎に活発な取り組みがなされ、地域課題に対して積極的な活動が行なわれている。
		7. 文化団体等の活動援助	随時	町内関係施設	文化団体等		文化連盟加盟団体19団体 マナセン利用サークル 54サークルの文化振興を図るため、美幌町文化連盟との連携をさらに密にすることが必要である。
		関連事業 ・おもしろ科学の祭典inびほろ ・はたちのつどい ・サークル開設講座 ・ブチアートギャラリー	すくすく育む子どもの学びで記載 にここに広げるコミュニケーションで記載 のびのび高める豊かな学習で記載 〃				
にここに深めるコミュニケーション	コミュニケーションを深める 事業の充実  地域活動・サークル活動の 奨励	1. はたちのつどい	10月17日 ～2月16日 (12回)	マナビティーセンター	新成人 H 2. 4. 2～ H 3. 4. 1生	6名 延58名	限られた人数ではあったが、多くの会議を重ね「成人の集い」実施へ向けて計画がなされた。独自の活動として新成人の現況などを集めた文集を作成し来場者全員に配布するなど精力的に活動が行われた。
	地域におけるふれあい活動の 促進  明るいあいさつ、やさしい 声かけ運動の推進	2. 成人の集い	1月 9日	町民会館	成人該当者 (231名)	143名 (内38名 町外者)	「はたちのつどい」の計画に基づき実施した。進行等ほぼ全ての面を「はたちのつどい」が行い特にプログラム内のスライド映像まで「はたちのつどい」が作成し、成人の集いにかける思いを会場全体が共有できるものとなった。
	郷土愛を育むことのできる 機会の充実	3. 女性学級	4月～3月	主に町内等	女性学級生	延552名 (7学級 開設)	各学級の運営委員会による主体的な取り組みがなされた。活動の成果が地域に還元されるなどの取り組みも見られ、各学級とも充実した内容であった。

	推進項目	事業名	期日	場所	対象 (募集人員)	参加人員	反省・評価
ここにこ 深める コミュニ ケーシ ョン	コミュニケーションを深める事業の充実	4. 自治会女性部役員研修	3月19日	網走市	女性部役員等	22名	オホーツク教育局社会教育指導班主査より講義を受け、管内や全道の女性団体の動向を学び、刺激を受けた中で、女性活動の意義など基本的な事項について再確認することができた。
	地域活動・サークル活動の奨励	5. 青年団体の活動援助	通年		町内の青年	11名	平成22年度中に少数名ではありましたが町内の青年との昼食会を実施した。また、つみきサークルOB・OGを中心に声かけを行い、組織化ならび活動の基盤づくりを進めている。
	地域におけるふれあい活動の促進	6. 北中学校特別教室夜間開放	通年	北中特別教室	団体・サークル	3団体・サークル	休館日～年末年始施設の自主管理により使用しているが、利用サークルが固定化しており周知等の工夫が必要となっている。
	明るいまあさつ、やさしい声かけ運動の推進 郷土愛を育むことのできる機会の充実	関連事業 ・マナビティーセンター講座 ・マナビティーセンター講座 ・サークル開設講座 ・家庭教育学級 ・コミュニティスクール ・高齢者教室「明和大学」 ・マナビティーセンター講座、サークル開設講座	フレッシュママセミナー 親子ですくすく教室 わんぱく教室	すくすく育む子どもの学びで記載 〃 〃 〃 〃 いきいき支え合う高齢社会で記載 のびのび高める豊かな学習で記載			
いき いき 支え 合 う 高 齢 社 会	高齢者が主体的に活動できる事業の充実	1. 高齢者教室「明和大学」の開設 本科1年 29名 研修1年 13名 2年 18名 2年 13名 3年 19名 3年 14名 学生数 106名	通年 月2回 (水曜日)	マナビティーセンター	65歳以上の町民	105名 延2,266名 内1年生 29名	今後も学習内容の偏りがなく、学生のニーズを把握しながら取り組んでいきたい。保育園・中学校への訪問やクラブ活動での慰問等、地域に出向いての活動も多く、今後さらに地域とのつながりや青少年との関わりを充実していきたい。
	同世代や世代間の交流機会の拡充	明和大学公開講座 「高齢者のいきがづくり」 北海道文学館理事 齊藤征義氏 「温泉のすすめ」温泉は体を癒す 温泉アドバイザー 深野典之氏 明和学校祭	① 7月 7日 ② 11月 10日 8月 21日	マナビティーセンター 〃	明和大学生と一般町民	177名 一搬 参加59名	町民の方をはじめ明和友の会、老人クラブ連合会等の学習機会にもなっている。今後も内容を充実し取り組んでいきたい。
	高齢者の豊かな経験や知恵を社会に活かす機会の拡充	3町高齢者大学交歓会	10月 8日	マナビティーセンター 美幌町民会館	明和大学生と一般町民 3町高齢者大学生	約200名 352名	学生の自主活動として、今年度第6回目を迎えた。学生自治会の主体性により盛会に終了したが、内容面のさらなる充実を図りたい。 3町持ち回りでを行い、3町の高齢者が一同に会し、日頃の学習の成果を発表し合ったり、レクリエーションを通して親睦・交流を深め合った。
		2. 明和大学「友の会」の活動援助 3. 高齢者のグループサークル活動援助	随時 随時	マナビティーセンター マナビティーセンター等	明和大学卒業生 高齢者	149名 5サークル	定期的な活動を主体的に行っており、明和大学公開講座や学校祭等に多くの参加協力を得ている。 明和大学卒業後の自主活動の支援として、活動場所や求めに応じた相談等の対応をしており、今後も支援していきたい。
	関連事業	サークル開設講座 教育資源リストの作成・配布	のびのび高める豊かな学習で記載 学習基盤の整備で記載				

	推進項目	事業名	期日	場所	対象 (募集人員)	参加人員	反省・評価
のびのび高める豊かな学習	幅広い分野の学習機会の充実 学習者同士が互いに学び、高めあう機会の充実 自主的・自発的な学習活動の支援 学習成果を活かす機会の提供	1. マナビティーセンター講座 ① 作って楽しむバルーンアート 技術講座	6月 4日	しゃきっとプラザ	成人(20名)	32名	講座終了後、参加者10名が中心となって「バルーンパーティー」を結成、その後の継続活動につながるなど、風船という身近な素材を用いて誰でも楽しめる大変充実した内容であった。 参加者は少なかったが、「さいえんす北見」の先生方より新しい科学実験について熱心に学んでいる様子をうかがうことができた。成果についてはおもしろ科学の祭典において披露された。 今年度もらんさんの会との共催事業として実施した他、財団法人北海道生涯学習協会の3者共催で実施した。これからのまちづくりについての講義に加え、参加者が居住する身近な地域の課題等を意見交換する時間を設けて実施、自分たちが住む町の課題等を考える大変良い機会となった。 昨今話題となっている「ご当地グルメ」をテーマとして、その魅力や裏側、今後のご当地グルメについて学習した。タイムリーかつ近隣地域で提供されている料理を中心に紹介していただいたことで、参加者も身近に感じることができ大変充実した内容となった。
		② おもしろ科学の祭典inびほろ指導者 養成講座	7月 7日 7月 21日 8月 27日	マナビティーセンター	成人(20名)	5名 延15名	
		③ きらり☆女性セミナー 「これからのまちづくりに 求められるもの」 インタラクティブ研究所代表 安田睦子氏	11月19日	マナビティーセンター	成人	46名	
		④ イマドキ講座 「もっと知りたいご当地グルメの魅力」 (株)リクルート北海道じゃらん編集部 原田亜紀氏	3月10日	マナビティーセンター	成人	46名	
		2. 美幌農業高等学校開放講座 ・野菜でエンジョイコース 5/22. 6/19. 7/31. 9/11 ・作って食べよう食品加工コース 5/22. 6/12. 7/ 3. 9/11 ・ガーデニングでうるおいコース 5/22. 6/19. 7/31. 9/11 ・今日からあなたもパソコマスターコース 5/22. 8/23～27. 9/11 ・ファミリーうきうきコース 5/22. 6/19. 7/31. 9/11	5/22. 6/19. 7/31. 9/11 5/22. 6/12. 7/ 3. 9/11 5/22. 6/19. 7/31. 9/11 5/22. 8/23～27. 9/11 5/22. 6/19. 7/31. 9/11	美幌農業高校	小学生以上 15名 10名 10名 20名 10組	5名 延19名 10名 延37名 8名 延28名 12名 延81名 4組 延40名	
3. サークル開設講座 ① 楽しいコーラス教室 (主管：合唱団アダージョ)	6/24. 7/1. 8. 15 計4回	マナビティーセンター	成人(20名)	11名 延38名	本町在住の声楽家を講師として招き、発声の初歩から大変丁寧に指導していただいた他、サークル会員や他の参加者とも交流を深められた。講座修了後、1名がサークルへ入会した。 2種類の粘土を用いて花瓶と皿を作り上げた。作品づくり→釉薬→窯出し等作品が完成するまでの一連の過程を体験することができた。 講座修了後、2名がサークルへ入会したが、指導がサークル会員を指導する講師の方のみであり、サークル全体の取り組みに至っていなかった。サークル会員と講座参加者による交流が深められるような配慮が必要である。 今年度初めての取り組みとなったが、定員を上回る申し込みがあった。初心者取り組みやすい内容を計画していただき、大変充実した内容であった。終了後3名がサークルへ入会した。		
② 初心者陶芸教室 (主管：陶芸サークル陶友)	9/29. 10/6. 20. 27計4回	マナビティーセンター	成人(10名)	6名 延23名			
③ 初心者書道教室 (主管：書を親しむ会)	11/15. 16. 18 計3回	マナビティーセンター	成人(15名)	6名 延17名			
④ フラワーアレンジメント教室 (主管：フラワーサークルふきのとう)	11月28日	マナビティーセンター	成人(12名)	15名			
4. プチアートギャラリー	5月～4月	マナビティーセンター	町民		マナビティーセンター利用サークルの理解を得て、手工芸作品を中心とした作品をロビーに展示し、利用者参画による施設運営を行うことができた。		
5. 美幌町文化祭 ① 作品展示 ② 舞台発表	11月1～3日 11月 3日	コミュニティセンター 町民会館	町民 町民	2,260名 760名	展示発表では福祉関係団体施設の展示の増加もあり内容豊かな展示となった。 芸能発表は、一般参加者出演の増加により、様々なジャンルの発表を行うことができた。特に洋楽の部において子どもたちの出演が増加したこともあり、多くの来場を得ることができた。 作品数 2,102点 芸能発表 23団体		

	推 進 項 目	事 業 名	期 日	場 所	対 象 (募集人員)	参加人員	反 省 ・ 評 価
のびのび高める豊かな学習	幅広い分野の学習機会の充実 学習者同士が互いに学び、高めあう機会の充実	6. 芸術文化鑑賞事業 「三遊亭好楽・小遊三 二人会」	1 2 月 7 日	町民会館	町民	639名	文化連盟の主体的な事業実施により、多くの来場を得ることができ、幅広い年齢層が一流の芸術文化にふれる機会となった。
		7. 芸術文化活動の援助	随時		町民		ふるさとづくり事業 指導者招聘 1 団体(吹奏楽育成会) 鑑賞 2 団体(いにしへの調べ・人形劇) 全道大会派遣 1 団体(美幌吹奏楽団)
	自主的・自発的な学習活動の支援 学習成果を活かす機会の提供	関連事業 教育講演会 明和大学公開講座	すくすく育む子どもの学びで記載 いきいき支え合う高齢社会で記載				
学習基盤の整備	わかりやすい情報を伝えるために (情報提供の体制整備) 学びの手助けを充実するために (指導体制の整備) 魅力ある学び場とするために (施設の整備) 水多き大いなる「まち」づくりへ (成熟した生涯学習社会をめざして)	びほろっ子プレイガイドの発行 (月 1 回発行) 教育資源リストの作成・配布  学習相談体制の充実 相談件数 7 件  有志指導者の養成と活用 社会教育活動奨励員会議 全体会 年 2 回 各部会 年 6 回程度  関係委員の研修機会の整備 ①市町村社会教育委員長等会議 ( 7 月 9 日～10 日 於 札幌市 3 名 ) ②第50回記念北海道社会教育研究大会兼全国社会教育委員連合北海道ブロック大会 ( 8 月 2 6 日～27 日 於 釧路市 2 名 ) ②網社連協北見・斜網地区研修会 ( 1 0 月 2 日 於 津別町 1 名 ) ③網走管内社会教育振興セミナー ( 1 1 月 6 日 於 湧別町 3 名 )					
		活動サークル作品等展示スペース及び学習情報コーナーを設置(プチアートギャラリー) 利用者からの寄贈により研修室3に壁面鏡の設置 (仮称)文化ホール建設工事着工(第1ホール解体等)  総合的な施策の企画・調整・立案 第6次美幌町社会教育中期計画の策定					



推進項目	事業名	期日	場所	対象 (募集人員)	参加人員	反省・評価
青少年の健全育成 1 巡視活動 (1) 定例巡視	① 定例巡視 ○各小中学校の入学式・始業日・終業日の「声かけ運動」の実施。 ・入学式 (巡視延べ人数：74名) ・1学期終業日 (巡視延べ人数：47名) ・2学期始業日 (巡視延べ人数：42名) ・2学期終業日 (巡視延べ人数：50名) ・3学期始業日 (巡視延べ人数：54名) ○中学生と育成指導員との合同巡視の実施(参加者：34名) ・美幌中学校(生徒5名・高校生3名・民生委員2名・教諭1名 育成指導員2名・育成協1名・事務局3名) ・北中学校(生徒8名・教諭1名・高校生2名・ 育成指導員3名・事務局3名)	4月6. 7日 7月23日 8月18日 12月22. 24日 1月17. 19日 9月12日 9月12日	各小中学校 " " " " " 各中学校の通学路等 各中学校の通学路等			各小中学校での「声かけ」活動は定着しており、今後も継続した取り組みが必要である。  民生児童委員・高校生ボランティアの参加をいただいた。今後も「子どもたちの目線」で継続していきたい。
	② 夏休み巡視 ○各小中学校やプール・公園等の巡視を実施。 (巡視延べ人数：8名)	7月28日 8月4日 8月11日	町内			暑さのせい児童の日中の外出は少なく、プールが盛況であった。
	③ 冬休み巡視 ○スキー・スケート場、公園等の巡視を実施。 (巡視延べ人数：10名)	12月27日 1月7日 1月14日	町内			屋外ではスキー・スケート場以外での子どもたちの姿はほとんど見られなかったが、児童センターは盛況であった。
	④ 春休み巡視 ○カラオケ店、コンビニ等の巡視を実施。 (巡視延べ人数：10名)	3月26日 4月2日	町内			コンビニ等での未成年者へのお酒・たばこ販売禁止の徹底、有害図書等の販売状況確認を行った。
(2) 合同巡視 地域安全パトロール隊リトルウイング(育成センター、育成協議会、警察署補導員、民生児童委員、護老子)、PTA等と連携し巡視を実施。	① ふるさと盆踊り ○会場内及び周辺の巡視を実施。 (巡視延数：122名) ② ふるさと祭り ○会場周辺を3コースに分けて巡視を実施。 (巡視延べ人数：343名) ③ 新入学期 ○小学校は新入学児童の下校時と通常下校時の2回。中学校は通常下校時の1回実施。 (巡視延べ人数：85名)	8月13. 14日 9月4～6日 4月8. 9. 12. 14. 16日	美小グランド 盆踊会場周辺 祭り会場 子ども横丁 小中学校			児童・生徒の安全安心のため、今後も取り組みは必要である。
(3) 特別巡視	① 不審者等の出没時及び事件等発生時 ○リトルウイングを中心とした巡視 通学路周辺の青色パトロール巡視。 平成22年度発生件数：10件 ② 青少年の事件等の発生 1件	4月～3月 4月～3月	町内			前年度に比べ不審者等の発生件数は増加している。緊急時の迅速な対応が必要である。
(4) 随時巡視	○日常において、危険箇所等問題点があれば育成センターへ連絡をもらい改善する。また、自宅付近の公園、遊び場、通学路等の巡視を行う。	随時	町内			改善点等、特になし。
2 環境浄化活動	○有害図書等販売の立入り調査。	随時	町内			定例巡視の際に、自動販売機、販売店を訪問する。

推進項目	事業名	期 日	場 所	対 象 (募集人員)	参加人員	反 省 ・ 評 価
非行防止に関する啓発活動 1 強調月間等啓発活動の協力 (1) 第60回社会を明るくする運動 ○開会式、街頭パレード及び街頭啓発 (参加者: 10名) (主催: 社会を明るくする運動美幌推進委員会)		6月27日	町民会館及び大型店			社明運動との連携を図り啓発活動を実施している。
(2) 全国青少年健全育成強調月間 ○開会式、街頭啓発 (参加者: 7名) (主催: 美幌町青少年育成協議会) ○第8回「明るい家庭づくり」絵画コンクール表彰式 (主催: 美幌町青少年育成協議会) ・応募総数128点(小学生114点、中学生14点) 表彰作品 16点(小学生 8点、中学生 8点) ○第27回美幌町「少年の主張」大会 (主催: 美幌町青少年育成協議会 主管: 美幌町生徒指導連絡協議会) ・発表者20名(小学生8名、中学生12名)、来場者 130名。		10月31日 10月31日 11月20日	町民会館及び大型店 町民会館 美幌小学校体育館			開会式、街頭啓発ともに関係団体等の協力と連携が図られている。 前年度に比べ応募総数は増加した。  育成協議会、生徒指導連絡協議会と連携し実施。小中学校の積極的な協力が得られている。
(3) 美幌町歳末特別警戒出動式 ○出動式、街頭啓発 (参加者: 8名)		12月16日	町民会館及び大型店			美幌警察署「びほろ110番ネットワーク」との連携。
2 青少年の健全育成のぼり旗の設置 ○健全育成・非行防止等のぼり旗を7月(7/1~7/31)と11月(11/1~11/30)、強調月間等啓発活動と併せて町内10ヶ所に設置した。		7月 11月	各学校及び 公共施設周辺			啓発活動として今後も継続し実施する。
3 広報活動 (1) 町広報紙による啓発 ○各学校における長期休暇の日程等を町民に周知し、児童・生徒を見守る呼びかけを広報紙に掲載した。		7月号 11月号 12月号	全戸配布			夏・冬休みにあわせて、全国青少年健全育成強調月間を広報紙に掲載する。
(2) 育成協議会発行「リトルウイング」による情報提供 ○青少年健全育成に関わる情報提供。		7. 9. 11. 3月	町広報紙配布時に 全戸配布			青少年健全育成活動の啓発と町民の積極的な参加を今後も推進する。
4 「道民家庭の日」推進事業 ○第8回「明るい家庭づくり」絵画コンクール実施に伴う協力。		10月31日	町民会館			毎月第3日曜日は、「道民家庭の日」。地域への理解、周知を図れるよう取組みが必要である。
5 「電話聞き役ホットライン」の開設 ○いじめ、引きこもり等で悩んでいる児童・生徒あるいは保護者を対象に聞き役マイスターによる電話相談を実施した。		毎週木曜日 16:30~18:00	マナビティセンター			開設3年目。開設を隔週木曜から毎週木曜に開設時間を15:00~17:00から16:30~18:00に拡大をしたが、利用者はなかった。
青少年育成指導員の資質向上を目指した研修の推進 1 青少年育成関係者並びに指導員研修会 ○青少年の健全育成及び非行防止等に関する研修の実施。 地域安全パトロール隊リトルウイング会議 ビデオ鑑賞等		8月 5日	マナビティセンター			青少年育成指導員の資質向上のため実施した。美幌警察署より講師を招く予定であったが、都合によりビデオ鑑賞に変更となった。
2 各種研修会への派遣 ○平成22年度北海道青少年育成大会 ○平成22年度青少年育成運動活性化研究協議会		9月10日 10月29日	札幌市 1名 札幌市 1名			他地域の実態及び指導員の資質向上のため、今後も派遣していきたい。

推進項目	事業名	期日	場所	対象 (募集人員)	参加人員	反省・評価
青少年育成関係機関、団体との連携 1 美幌町青少年育成協議会との連携 ○全町的な青少年健全育成活動を推進するため、事業等の連携及び協力を実施した。	・美幌町青少年育成協議会総会 ・小中学校・高等学校PTA生活部と育成協議会との合同連絡会議 ・地域安全パトロール隊リトルウイング会議 ・第8会「明るい家庭づくり」絵画コンクール審査委員会 ・「全国青少年健全育成強調月間」開会式 第8回「明るい家庭づくり」絵画コンクール表彰式 ・第27回美幌町「少年の主張」大会	5月31日 7月14日 8月5日 9月17日 10月31日 11月20日	マナビティーセンター " " " 町民会館 美幌小学校体育館			育成協議会とは、一体となって各事業を進め、青少年健全育成に対する理解も深まり「地域の子どもは地域で育てる」運動に大きな広がりを持つことができた。今後も、青少年健全育成に対する連携及び協力を推進したい。
2 生徒指導連絡協議会 ○関係機関による協議会。(各小中高の生徒指導担当教諭、育成協議会、警察署、児童相談所、主任児童委員、保護司会、教育委員会)		5月18日 7月9日 10月7日 12月3日 2月21日	旭小学校			青少年健全育成の情報交換を行い、育成センターの活動の理解を図った。
青少年育成指導員会議 1 定例会 ○定期的に会議を開催し、育成センター及び育成指導員の活動等について協議した。		5月20日 7月6日 12月13日 3月16日	マナビティーセンター			4回開催し、協議・意見交換を行った。

## (5) 図書館グループ

### 平成22年度図書館グループ総括評価

#### 1. はじめに

「いきがいとこころのゆとり」を育む『生涯学習』の言葉が人口に膾炙して久しいが、公立図書館は地域住民の多様化・高度化した学習ニーズに合わせた支援、サービス、情報を的確に提供する拠点として存在するところにその使命がある。即ち、住民の身近にあって、図書やその他の資料を収集、整理、保存し、その提供を通じて住民の個人的な学習を支援する役割を持つ。私たち職員は日々職能を磨き、より実践力を備えた質の高い人材を目指し、そうした住民サービスを適切なコミュニケーションを柱に努めてきた。

#### 2. 具体的取組の概括的評価及び改善の方策

最終年度を迎えた「第5次美幌町社会教育中期計画」の5項目及び「平成22年度美幌町図書館の運営」に記載している“今年度の重点”及び“具体的取り組み”に基づいて検証する。

##### (1) PR活動の強化

町広報（毎月）図書館通信（年2回、6月・12月発行）、図書館だより（毎月）、こどもとしょかんだより（年4回）、ホームページ（月2回更新）等で事業案内を行っている。

図書館事業の周知のため引き続き、館内掲示はもとより役場・マナセン・スポセン・博物館・郵便局などたよりの設置箇所を拡大すると同時に、報道機関への記事掲載依頼を推し進め、発信する図書館として事業案内については漏れなく行ってきた。特に「来館者増に向け積極的施設改修ぐんと進む」（22.2.16美幌新聞）、「少子化でも貸し出し増加ブックスタート事業好調」（22.9.28北海道新聞）の記事は大きな反響を呼んだ。

##### (2) 各団体との連携

団体文庫は、図書館利用サークル、幼稚園・保育所、小学校、自衛隊、病院、デイサービスセンター、理容院などを対象とし、個々の状況に応じた選書・貸出を行い利用されている。

学校・学級文庫として、あるいは社会科を中心とする教科や総合的な学習の時間の資料としての利用が多い。ただ学校・学級による差があったり、中学校の利用促進に課題が残った。また、町内2カ所にあるユニットは必ずしも利用が多いとは言えないが、新たに大活字本の需要が増える傾向が見られた。地域における高齢者の憩いの場でもあり、灯油の一部負担を図るなど存続への努力を続けたい。

図書館利用サークルは構成員が高齢化傾向にあるが、それぞれの目的に則り活発な活動を行っている。フェスティバル期間中の作品発表もサークル員の作品創りに励みとなっているようである。また、活発に行動する読み聞かせボランティア「いろりの会」が、昨年度の「美幌出前お話の会がらがらどん」に続き、北海道読書推進運動協議会の『優良読書グループ』北海道表彰を受けた。

##### (3) 事業を通しての機会づくり

###### ①【すくすく育む子どもの学び】

「ブックスタート、絵本とあそび、おはなしのへや、おはなしと工作のひろば、手作り絵本、子ども映画会」など、乳幼児から児童生徒を対象に各事業を展開した。特に16年度から始まったブックスタートの事業成果が着実に浸透し、乳幼児を連れた親子の来館が「えほんひろば間仕切り」の効果と相まって増加し、同所で親が読み聞かせをしては満面に笑みを浮かべる子どもたちの姿が見られた。

また、絵本とあそび！、おはなしのへやなどでも常連の親子が着実に増えている。今後、ブックスタート事業の更なる改善充実のため、3歳児健診時でのアンケートを実施し、保護者に対する読書への関心を深める方策を考えていきたい。

反面、児童生徒の活字離れ読書離れが叫ばれて久しい今日ではあるが、小・中学生の事業参加が依然鈍い。ゲームやインターネット、携帯などの影響、依存傾向が益々強まっていると考えられる。

学校訪問や長期休業前の「こどもとしょかんだより」などで課題図書・推薦図書等の紹介を通し、読書の魅力を啓蒙すると同時に読書感想文コンクールへの出点数増に連動させる事が大きな課題である。これらを「第2次美幌町子どもの読書活動推進計画」に則り地道な取組

を行っていききたい。

②【わくわく広げるボランティア活動】

夏休み期間中、児童生徒対象の「図書館体験の日」があり、小学生を中心に希望者も増える傾向にある。図書館の仕事を体験する中で社会参加の芽、奉仕の心を養わせる目的があり一層推進したい。

「図書館ボランティアの日」には、5～8名ほどの参加があり、除籍本シール貼りや絵本拭きなどの軽作業を中心に従事していただき参加者の交流の場にもなっている。

「いろり」「がらがらどん」などのサークル活動では、乳幼児から小学生対象に読み聞かせによる読書活動啓蒙を図っていただいている。

今後、各学校と協議の上対象校の拡大に努めたい。

③【にこにこ深めるコミュニケーション】

図書館フェスティバルは同実行委員会と共催で、古本市・読み聞かせ・朗読会・吟詠・映画会・サークル展示・手型などを開催した。

16回を数える古本市は、雨模様の不安定な天気が災いし、来客・売り上げ共に減少したが、同時開催のバルーンアートやフリーマーケットなど町内外の根強いファンに支えられ盛会だった。また、各サークルによる事業も計画通り実施され成果を収めた。ただ、古本市を除く事業には来館者が多いとは言えず、夜間開館・事業の夜間実施の是非も含め町民への啓蒙を工夫する必要性を感じた。

④【いきいき支え合う高齢社会】

昭和63年開講以来20年以上継続している「古典文学講座」は本館の看板事業とも言えるものであり、生涯学習社会にふさわしく26名の登録者を数え実施された。本講座は道民カレッジ事業の一つとして登録され、町外からの参加者も名を連ねている。新年度は統合高校となるが、学社融合のモデルともいえるものであり、経緯を説明の上講師派遣をお願いし、事業の継続を図りたい。また、日本映画を中心として上映されている「シニアのためのお楽しみ文学館」も固定ファンに支えられている。所有作品が限られ2・3年毎のローテーションにならざるを得ず、飽きられる傾向にあり観客減の原因ともなっているが、予算の有効活用を図り新作購入と観客増に結びつけたい。

⑤【のびのび高める豊かな学習】

図書館職員の業務の一つにレファレンスサービスがある。来館者のニーズに対する適切な対応は職員の生命線とも言うべきものである。職能向上のため日々の打合せで高め合うと共に業務打合せ・選書会議等で意見交換を行い課題解決を図っている。

時宜に応じた「特集コーナー・原作本コーナー・追悼コーナー・受賞作家コーナー」等の開設。図書館施設（2階ギャラリー）を開放しての企画展・作品展等の充実が図られた。また、マナセン（サークル紹介）・スポセン（チャレンジデー）・博物館（ザリガニ展、美幌川の魚など移動展、絵画展ほか）など社会教育他グループ事業との連携を図った。今後、図書館協議会・歩む会・ボランティア活動の協力者と手を携え魅力ある図書館の創造に努めたい。

小中学校との共催による「読書感想文コンクール」を契機とした読書活動の充実強化。「図書館体験の日」等を通し、次代を担う児童生徒が図書館に興味関心を持てるよう働きかけたい。

蔵書の増加・充実と収納は悩みの一つだが、「廃棄本無償譲渡」により一部を町民に還元し喜ばれている。

(4) 施設・環境整備

図書館サービスを行う「場」としての機能性は時代と共に変化しており、その流れに即応したハード面における「場」造りが欠かせない。図書館が建設されて30年の節目の年。町費に加え、寄附金そして政府の「住民生活に光をそそぐ交付金」等が交付され、下記の各種改修工事及び環境整備事業がなされ利用者の利便性の向上を図った

- |                         |     |                      |
|-------------------------|-----|----------------------|
| ①高圧受電設備工事               | 22年 | 4月(地域活性化・きめ細かな臨時交付金) |
| ②えほんひろば間仕切り             | 同   | 7月(地域活性化・きめ細かな臨時交付金) |
| ③玄関及び正面舗装部分舗装、自転車小屋屋根塗装 | 同   | 7月                   |
| ④2階トイレ漏水工事              | 同   | 11月応急処置完了            |

- ⑤ペレットストーブ設置 22年12月
- ⑥冷暖房設備設置(絵本広場・読書会室・視聴覚室) 23年3月(住民生活に光をそそぐ交付金)
- ⑦プロジェクター設置工事 同 (寄附金活用)
- ⑧キャレルデスク設置(朗読CD活用) 同 (住民生活に光をそそぐ交付金)

多様化する利用者ニーズに応え蔵書の増加・充実を図ってきた結果、蔵書冊数は12万冊余となり、更に「光・交付金」の多額な交付による図書(新規・更新)・視聴覚(朗読作品)の購入は、図書館の役割を果たす上で大きな力となった。購入に当たっては趣旨に則りよく吟味して行いたい。

一方、収納場所の不足は、可動書架の設置、館外への一部移動等によりしのいでいるが、昨年同様抜本的解決策を見いだせない状況にある。

また、老朽化が著しく館内の照明や視聴覚設備、水回り施設等の不具合が生じている。更に、来館者の増加に伴う駐車場の不足が恒常化する中、一部駐車場提供の申し出があったものの依然解決には遠い。設備の改築や改修等々課題山積の状態である。

そして、未返却本の解消には、はがき・電話・訪問を行い利用者の自覚を促していきたい。

### 3. おわりに

町民に愛され利用される図書館を目指し、職員は持てる力の発揮に努めてきた。利用のバロメーターともいえるべき「来館者数」「貸出冊数」は下記の通り昨年に比べ、開館日数が2日間少ないものの19年度以来の「来館者増」が果たせた。また、「貸出冊数」は若干減少したが昨年に続き16万冊を超え、評価できる結果となっている。とりわけ「絵本」は前年比3,190冊増を記録した。人口減、館内外工事等の要因はあったが、そうした実態をも謙虚に受け止め、職員はアンテナを高く持ち、各事業の精選・改善を行いながら町民に愛され必要とされる図書館創りに一丸となって邁進したい。

【参考】 ①利用状況	22年度	21年度	増(△) 減(▼)
◎来館者	74,842人	74,735人	△ 107人
【一日平均】	(261人)	(259人)	(△2人)
◎貸出	162,119冊	164,144冊	▼2,025冊
【一日平均】	(564.9冊)	(567.9冊)	(▼3.0冊)
*開館日数 22年度(287日)、21年度(289日)			
【参考】 ②未返却状況	平成17年~平成22年. 12月末現在 51名117冊		

	推進項目	事業名	期日	場所	対象 (募集人員)	参加人数	反省・評価
すくすく育む子どもの学び	親子が気軽に利用できる機会の充実 読書活動の重要性についての理解促進 子育てに関する情報交換機会	1 おはなしのへや	毎月第1、第3、第5木曜日 (30分)	視聴覚室	幼児・児童(3歳～10歳位)、父母	25回 延235名	「絵本とあそぼ！」参加者が成長し参加するケースが多くなっている。今後さらに内容の充実や積極的にPRをしながら利用者増に向けて努力していきたい。
		2 お話とびだせ！たまてばこ	10月2日	視聴覚室	幼児・児童、父母	1回 84名	図書館フェスティバルの行事として実施された。図書館体験の日の参加者などが読み手として参加し、小学生からシニア世代まで幅広く事業に参加した。
		3 保育園読み聞かせ巡回	月1回各保育園	町内保育園	保育園児	2ヶ所 計22回	ボランティアの協力を得て保育園において読み聞かせの巡回を行った。
		4 出前お話会の開催		子ども発達支援センター	幼児・児童	0回	要請に応じ出前お話会を開催すべく準備しているが、今年度は開催が無いため、利用拡大に向けて更なるPRが必要である。
		5 ブックスタート事業	5/12, 6/16, 7/14, 8/8, 9/15, 10/13, 11/10, 12/15, 2/2, 3/9	しゃきつとプラザ	10ヶ月児、父母	10回 148名	10ヶ月健診のブックスタート時や3歳児健診において事業についてのアンケートによると事業はおおむね好評であり子どもへの絵本の動機付けとともに親に対する図書館利用へのPRにもなっている。現在4名のボランティアの方に協力をお願いしているが、今後もボランティアの発掘を継続したい。
		6 絵本とあそぼ！	毎月第2、第4木曜日(30分)	視聴覚室	乳幼児(0～2歳児位)、父母	22回 延419名	ブックスタート時の説明やロコミなどにより常に新しい参加者に恵まれている。読み聞かせやプログラムの企画等に2名の方にお手伝い頂いているが、今後もボランティアの方を発掘したい。
		7 子ども映画会	4/10, 5/8, 6/12, 7/10, 8/14, 9/11, 10/9, 11/13 12/11, 1/9, 2/12, 3/12	視聴覚室	幼児・児童、父母等	12回 延314名	学童保育の児童など定期的な参加があった。親子、友達同士での映画鑑賞とおした交流の場となっている。
		8 おはなしと工作のひろば	4/24, 7/24, 11/27, 2/26	視聴覚室	児童及び父母	4回 延37名	季節や行事にあわせた絵本を紹介する良い機会となっているが、参加者が減少し、当初の目的である小学生の参加が少なくなってしまったことから利用拡大に向けたPRが必要である。
		9 手づくり絵本講習会	7月29日～30日	視聴覚室	児童及び一般	2日 10名	講師を迎え、絵画の基本を学んだ上で絵本を作成した。
		10 壁面及び柱面装飾	随時	図書館内	幼児・児童	4回	来館者が楽しんで参加できる場を設けた。
		11 学校文庫	4月～3月	福豊小学校	小学生	120冊× 12ヶ月	学校との連携をもとに計画的に配本できた。
		12 学級文庫	随時	町内大規模校	小学生	26学級 5,907冊	学級単位で団体文庫を設置。学校により利用状況に差があることからPRが必要である。
		13 おはなし文庫	4月～12月 2月～3月	季節保育所	幼児		定期的な配本での利用が定着している。 55冊×7ヶ所×9ヶ月 55冊×3ヶ所×2ヶ月(冬季)

	推 進 項 目	事 業 名	期 日	場 所	対 象 (募集人員)	参加人数	反 省 ・ 評 価
すくすく育む子どもの学び	親子が気軽に利用できる機会の充実 読書活動の重要性についての理解促進 子育てに関する情報交換機会の提供	14 幼稚園文庫	4月～ 3月	町内幼稚園	幼児		定期的な配本での利用が定着している。 藤 60冊、大谷55冊 毎月配本
		15 読書感想文コンクール	11月10日表彰式	図書館	小・中学生		児童生徒の読書力、表現力の向上を目的として小中学校及び学校図書館協会との連携のもとに感想文を募集し、表彰、文集発行を行った。
		16 児童生徒作品展	8月31日～9月12日	ギャラリー	小学生		展示機能を活用し、学校の協力を得て東陽小学校児童の作品発表の場を提供した。
		17 絵本展示「本の森でみ～つけた！虫たちがいっぱい！」	4月23日～5月12日	ギャラリー	幼児～一般		子ども読書週間にあわせ、図書館にある「虫」の絵本を展示した。博物館の協力を得て子ども向けの解説をつけた昆虫標本もあわせて展示し好評を得た。
わくわく広げるボランティア活動	ボランティア活動に参画できる機会の提供 図書資料を活用したボランティアへの支援	1 図書館サークル活動の支援	随時		読み聞かせボランティア		サークルに対する読み聞かせ講習の実施、打ち合わせ時などに絵本や読み聞かせ関連の情報提供を行った。
		2 ボランティア関連図書の紹介		図書館内	一般町民		ボランティアセンターの協力のもと町内ボランティアサークルの一覧およびボランティア関連図書のコーナーを作り展示した
		3 ボランティア研修講座	12月19日	視聴覚室	一般町民 読み聞かせボランティア	1回 47名	「おはなしわくわく講座」として講師を招集し開催。今年度はオホーツク教育局との共催で開催し、近隣市町村からの参加も含め多くの参加があった。
		4 図書館ボランティアの日	4/23, 5/28, 6/25, 7/9, 8/27, 9/24, 10/29, 11/26, 12/10, 1/29, 2/25, 3/25	視聴覚室他	一般町民	12回 延72名	シニア層を中心に多くのボランティアの参加があった。今後は、作業内容の拡大や新たなボランティアの発掘にも取り組んでいく必要がある。
		5 図書館体験の日	7月28日～8月14日	図書館内	小・中学生 高校生	8日 13名	子供達が図書館に親しみ社会参加する機会となったが、今年は高校生の参加者がいなかった為PRの拡大や開催時期の検討などが必要である。
にこにこ深めるコミュニケーション	図書館活動とおしたコミュニケーションを深める機会の充実 図書館機能を利用したふれあいの機会の提供	1 図書館フェスティバル	9月26日～10月3日	図書館	一般町民	延1,069名	今年度もフェスティバルにより多くの方に関わってもらうために関係団体による実行委員会を開催した。天候が悪く古本市への参加は例年より少なかったが各行事には多数の参加があった。又例年夜間に行事を実施していたが今年度はすべての行事を日中に行った。
		2 ユニットライブラリー	通年	町内2ヶ所	児童・一般	貸出冊数 1,022冊	どちらのユニットも高齢者や子供達など地域住民の交流の場としても利用されており、昨年と比べ利用冊数も増えている。今後より一層のPRの強化に努めたい。
		3 郷土資料の充実と目録の作成	随時				郷土資料室の計画的な整理を行っているが、今後町内各施設に呼びかける等広い郷土資料の収集を行いたい。



	推進項目	事業名	期日	場所	対象 (募集人員)	参加人数	反省・評価
いきいき支え合う高齢社会	高齢者の知識・技術・経験を次世代に伝える活動の支援	1 古典文学講座	5/15, 6/19, 7/17, 8/21, 9/25, 10/16, 11/20, 12/18, 1/16, 2/19	視聴覚室	一般	10回 参加者 26名 延163名	美幌高校の協力により講師の派遣をうけ「徒然草」をテキストに講座を実施した。シニア世代が学ぶ場として今後も継続したい。
		2 お楽しみ文学館	4/9, 5/14, 6/11, 7/9, 8/13, 9/10, 10/8, 11/12, 12/10, 1/14, 3/11	視聴覚室	一般	11回 延112名	参加者の誘い合いや名作の上映などにより人気を得ている。学習の機会に加えシニア世代の交流の場として今後も継続したい。
のびのび高める豊かな学習	自主的・自発的な学習活動の支援 学習情報の提供	1 レファレンスサービス	随時		幼児・児童 一般	199件	利用者の要望に答えることを基本として対応した。
		2 図書館施設開放事業	通年	1 視聴覚室	団体	63件 590名	サークル、町内保育所・幼稚園・学童保育などの利用があった。
				2 ギャラリー展示	団体・個人	13回	町民の作品発表の場を主として利用された。今年は特に部活や授業の成果発表など学校の展示も多くあり、今後一層の利用を呼びかけたい。
				3 読書会室 談話室 ギャラリー	団体 個人	57件 461名 469件 786名	町民の学習の場として利用された。学生から一般まで広く使う場所のためマナーを徹底した上で広く開放したい。
		3 宅配サービス	随時		一般町民	1名 4回	事情により図書館に来ることのできない方の家に宅配している。
		4 無償譲渡コーナー	6/8～20, 9/28～10/3, 12/7～19, 3/8～20	図書館内	一般町民	4回 延748名 3,040冊	図書館の廃棄本について無償譲渡を実施した。今後も限られたスペースの確保のためにも、定期的に無償譲渡を実施し町民に還元していきたい。
		5 ふらっとギャラリー	3月17日～24日	ギャラリー	一般町民		博物館との連携のもと博物館所蔵資料の展示を行った。広く町の所蔵する資料を公開する良い機会となった。
6 「まち・ひと・ほん」のコーナー	随時	図書館内	一般町民	4回	チャレンジデーや講演会等町内行事等にあわせて各機関との連携のもと特設コーナーを設けた。		
学習基盤の整備	わかりやすい情報を伝えるために (情報提供の体制整備) 気軽に学習相談ができるために (相談体制の整備) 学びの手助けを充実するために (指導体制の整備) 魅力ある学び場とするために (施設の整備) 水多き大いなる「まち」づくりへ (生涯学習の振興)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館通信の掲載(美幌町広報内 年2回)</li> <li>・図書館だよりの定期発行(投稿BOX設置による利用者参加の工夫)</li> <li>・子ども図書館だよりの発行</li> <li>・新着図書案内</li> <li>・特集コーナーの設置(児童・一般)</li> <li>・図書館要覧の発行</li> <li>・各種図書目録の作成</li> <li>・図書館お知らせコーナーの設置</li> <li>・図書情報システムの整備及びインターネットによる蔵書公開</li> <li>・図書館ホームページの開設</li> <li>・来館者用インターネット端末の設置</li> </ul>				図書館だよりのホームページなどの定期的な発行・更新により、図書館の行事や図書案内などの情報提供ができた。今後も図書館の利用や行事の参加など、これらを活用し積極的にPRしていきたい。	

## (6) 博物館グループ

### 平成22年度博物館グループ総括評価

#### 1. はじめに

博物館活動は、「調査研究活動」「教育普及活動」「資料整理活動」の3つの活動を基本にして、事業の取り組みを行なってきた。

事業は、「第5次美幌町社会教育中期計画」で設定された課題を解決できるよう実施しているとともに、博物館が持つ館特有な課題をも解決できるよう、事業内容や実施方法について検討している。

#### 2. 具体的取り組みの概括的評価及び改善の方策

##### (1) 各調査研究活動の充実

博物館事業展開の最も基礎となる部分で、継続的に町内動植物分布・生態調査、埋蔵文化財発掘調査・資料整理等を行なっている。特に、平成20年5月に、特定外来生物ウチダザリガニが町内で発見されたことから、ウチダザリガニの防除作業を開始した。今後も継続して実施していく見込みであるが、防除の方法など、防除成果を検討しながら修正していくようにしたい。

→調査研究活動を支援・協力してくれる協力員や地元民間団体との連携を強め、協力員・団体の充実に努めたい。また、収蔵されている未整理資料について、効率的に整理・データベース化を進めていきたい。

##### (2) 各種講座・教室、企画展の充実、および学校教育との連携事業の実施

例年どおり、「自然講座」「歴史講座」「びほろふるさと体験隊」「夏休み子ども自然教室」「モノづくり講座」「子ども工作教室」「博物館フォーラム」「特別展」「各種企画展」等実施して、美幌町の歴史・自然・農業等に、多くの方々が関心を寄せていただけるよう工夫して実施した。また、小学校や高等学校等における総合的学習や理科における授業の支援を行ない、学校教諭と連携しながら、自然体験授業や歴史体験授業を行なうことができた。

→今後も講座・教室内容の充実を図るとともに、学校教育との連携も積極的に図っていききたい。講座・教室に関しては、特に子どもや成人を対象にした講座・教室は充実していると思われるが、高齢者を対象にした講座・教室運営が不十分な部分もあることから、高齢者の興味対象となりやすい、歴史・考古・民俗をテーマにした講座・教室の運営を、さらに工夫したい。

##### (3) 常設展示の改修

平成22年度に、(旧)農業館1階部分の常設展示室の修繕が完了し、第2展示室として新しくオープンした。

→平成23年度は、既存博物館1F常設展示室の修繕にあたる予定である。

##### (4) 文化財の保全・保護

各種開発行為に伴う埋蔵文化財の事前調査、および道営畑総事業の予備調査を実施した。また町文化財の1つである「美幌小学校かしの木」について、地下部の治療（主に土壌改良）を樹木医に依頼して実施した。

→埋蔵文化財調査により収集された、未整理の遺物資料の整理を計画的に進めていく予定である。平成23年度は、同かしの木に関して、地上部の治療を樹木医に依頼して行う予定である。指定文化財の点検・巡視を行なうと同時に、その保全に努めていきたい。

#### 3. おわりに

継続的に工夫した事業展開を行ってきたと考えているが、多くの町民が博物館活動に関心を持ち、積極的に利用するという状況までには至っていない。継続して「開かれた博物館」を目指すとともに、広報の方法等更に工夫しながら、多くの町民が博物館活動に慣れ親しめるような状況を作っていきたい。

	推 進 項 目	事 業 名	期 日	場 所	対 象 (募集人員)	参加人員	反 省 ・ 評 価
すくすく育む子どもの学び	親子で取り組める体験学習の拡充  博物館の特性を生かした体験学習機会の充実  関係機関・団体との連携による学習機会の充実  ふるさとの歴史や自然などの情報提供	1. びほろふるさと体験隊	5/23、6/20、7/5、8/9、8/10～12、10/23、11/7、1/22、3/5	博物館・マナセン・町内	小学4～6年生（30名）	14名 延161名	「昔の暮らし」をテーマに、野山・川探検、自然キャンプ、昔の料理の試食、冬の自然遊び等、工夫した野外体験活動をメインに、博物館とマセンの連携により実施できた。
		2. 夏休み子ども自然教室	7/29・30、8/14	博物館・町内	小学4～6年生（14名）	3名 延9名	野外での動植物の観察・採集、室内での様々な標本づくり、ネイチャーラフトを行い、各自最後まで仕上げることができた。
		3. モノづくり講座	5/22・29、6/18・19・25・26、7/10・17、8/6・7、9/11・18、10/1・2・8・9、11/13、12/11・18、1/14・15、2/19、3/18・19	博物館	小学生以上～一般	延523名	身近な材料での工作づくり（まが玉、ガラス玉、フェルト、草木染め、オープン粘土、紙すき、キャンドル、スノードーム、おりびな）を行うことができた。
		4. 学校と連携した体験授業 美幌高等学校自然体験授業	11/12	町内	美幌高等学校3年生	40名	先生と役割分担しながら、美幌川において、サケの産卵床観察を行うことができた。
		5. 企画展「冬季作品展」	2/6～3/6	博物館	一般	427名 (入館者数)	冬休みの町内の小中学生の作品を、一堂に展示することができた。
		6. 企画展「交通安全ポスター作文展」	11/7～28	博物館	一般	250名 (入館者数)	町内の小中学生の作品を集めて、一堂に展示することができた。
		7. 子供の日無料開放	5/5	博物館	一般	316名 (入館者数)	柏餅・せんべいづくり、アニメ映画会、工作教室を企画し、気軽に館を楽しんでもらった。
		8. 子ども工作教室	8/4	博物館	小学4～6年生（12名）	12名	自分たちで電子回路を組立て、「目が光る魚模型」を作ることができた。
		9. 森の大工さん	8/1	マナセン	小中学生（25名）	22名	ふるさと美幌の自然と語る会との共催で、自由な発想を活かした木工作品をつくることができた。
		関連事業	自然講座 歴史講座	のびのび高める豊かな学習に記載 〃			
わくわく広げるボランティア	ボランティア活動による異なる年齢・世代間交流の充実  ボランティアに関する学習や活動機会の提供	1. 動植物生態調査	通年	博物館・町内	学芸協力員等の有志	延254名	町内における動植物の分布・生態調査・外来種の防除作業等を、地元民間団体、学芸協力員に協力してもらいながら進めることができた。
		2. 展示物・標本等の作成および既存資料の整理・各種講座教室の運営補助	通年	博物館	学芸協力員等の有志	延195名	採集された動植物の標本作成、各種講座教室の運営補助、企画展の準備等、地元民間団体、学芸協力員に協力してもらいながら、進めることができた。
	関連事項	びほろふるさと体験隊 学校と連携した体験授業 子ども工作教室	すくすく育む子どもの学びに記載 〃 〃				

	推進項目	事業名	期日	場所	対象 (募集人員)	参加人員	反省・評価	
イア活動		業 自然講座 企画展・特別展 博物館フォーラム	のびのび高める豊かな学習に記載 〃 〃					
ここに 深める コミュニ ケーション	親子体験学習の充実	1. 館情報の提供	通年		一般		町広報紙、館情報紙、館ホームページ等を通して、館行事案内、自然・歴史・農業等の情報を提供できた。	
	ふるさとの歴史や自然などを理解する機会の提供 関係機関・団体との連携による学習機会の充実	関連事業 びほろふるさと体験隊 学校と連携した体験授業 動植物生態調査 展示物・標本等の作成及び既存資料の整理・各種講座教室の運営補助 企画展・特別展 展示・常設展 自然講座 国際博物館の日記念事業 博物館フォーラム 歴史講座	すくすく育む子どもの学びに記載 〃 わくわく広げるボランティア活動に記載 〃 のびのび高める豊かな学習に記載 〃 〃 〃 〃 〃					
いきいき 支え合う 高齢社会	世代間の交流機会の充実 高齢者の知識・技術・経験を社会に活かす機会の提供	関連事業 動植物生態調査 展示物・標本等の作成及び既存資料の整理・各種講座教室の運営補助 企画展・特別展 展示・常設展 自然講座 博物館フォーラム 国際博物館の日記念事業 歴史講座	わくわく広げるボランティア活動に記載 〃 のびのび高める豊かな学習に記載 〃 〃 〃 〃 〃					
のびのび 高める 豊かな学習	自主的・自発的な学習活動の支援 多様化する学習への対応 学習成果を活かすことのできる機会の提供	1. 企画展・特別展	通年	博物館・図書館・国保病院・峠の湯びほろ・しゃきつとプラザ	一般		「ザリガニの暮らし」「寄贈資料展」「美幌川に暮らす魚たち」「交通安全ポスター作文展」「寄贈美術資料展」「冬季作品展」「美幌の縄文文化」等の企画展、ミニ展示「衣」「水」「山」「鑄」、移動展「ザリガニの暮らし」「美幌川の魚たち」(図書館との連携)、「美幌の四季」(峠の湯びほろとの連携)、「絵画・写真展」(しゃきつとプラザ・国保病院との連携)を企画・開催でき、美幌の農業・自然・歴史等について、広く展示を通して、一般の方々に、興味を抱いてもらうことができた。	
		2. 自然講座	5/29・30、6/6、7/24・25、8/22、9/25・26、10/17・24・30・31、3/27	博物館・町内	小学生以上～一般 (春夏編：40名) (秋冬編：40名)	延216名	ニホンザリガニ、身近な昆虫、ヘイケボタル、淡水魚、キノコ、野外生活技術、樹木治療、冬の自然等をテーマにして、身近な自然に親しんでもらうことができた。	
		3. 展示・常設展	通年	博物館				展示を利用した、ふるさと学習を行うことができた。
		4. 博物館フォーラム	8/22	博物館・町内	一般(40名)	20名	「淡水カジカ類の生態と進化」というテーマで、カジカ類に関する講演会、野外観察会を通して、多くの方々に、カジカ類を含む淡水魚類について、関心を抱いてもらうことができた。	

	推 進 項 目	事 業 名	期 日	場 所	対 象 (募集人員)	参加人員	反 省 ・ 評 価
のびのび高める豊かな学習		5. 国際博物館の日記念事業	5/16	博物館・町内		20名 (入館者数)	学芸員の解説つきで、普段見る機会が少ない標本資料等の展示、企画展の展示解説を行い、博物館を身近に感じてもらうきっかけづくりができた。
		6. 歴史講座	6/20・7/11・11/16	博物館・町内	小学生以上～一般 (10名)	30名	粘土土器づくり、アンギン編みなど、古代人の生活について、興味を持ってもらえるきっかけづくりを行うことができた。
	関連事業	学校と連携した体験授業 動植物生態調査 展示物・標本等の作成及び既存資料の整理・各種講座教室の運営補助	すくすく育む子どもの学びに記載 わくわく広げるボランティア活動に記載 〃				
学習基盤の整備	わかりやすい情報を伝えるために (情報提供の体制整備)  学びの手助けを充実するために (指導体制の整備)  魅力ある学び場とするために (施設の整備)  水多き大いなる「まち」づくりへ (成熟した生涯学習社会を目指して)	町広報紙「博物館だより」への情報提供  館情報紙「グリーンレター」の発行  館ホームページの開設  インターネットを媒介した学習相談 対応による体験学習、講演等の相談  (旧) 農業館1F展示室部分の展示修繕の実施				毎月掲載して、美幌の自然や歴史、博物館行事などを紹介することができた。 月1回発行し、美幌の自然、歴史、農業等の情報を紹介することができた。 館の情報等を随時更新しながらホームページで紹介することができた。 随時相談に応じた。 随時相談に応じた。  (旧) 農業館1階常設展示室修繕を行い、新しく博物館第2展示室としてオープンすることができた。	

## (7) スポーツ振興グループ

### 平成22年度スポーツ振興グループ総括評価

#### 1. はじめに

第5次美幌町社会教育中期計画では、水多き大いなるまちづくりへとして、学びのしずくを集めるために、5カ年の課題を設定し、スポーツを通じて心身の健康が促進されるよう、子どもから高齢者まであらゆる世代が生き生きと輝く成熟した生涯学習社会を築いていくこととしている。

#### 2. 具体的取組の概括的評価及び改善と方策

##### (1) 生涯スポーツの振興

- : スポーツ振興体制の充実
- : 総合型地域スポーツクラブの自立支援
- : 指導体制の充実と支援体制の強化

心身ともに健康で充実した生活を営むためには、生涯にわたりスポーツ活動に取り組むことが重要であり、誰もがいつでもどこでもスポーツに親しむことができる社会の実現が課題となっている。

総合型地域スポーツクラブ「びほろすぽーつクラブB e e t」の設立に伴い、地域住民が運動に親しめる機会を拡充するとともに、誰もが健康で豊かな生活と地域社会のコミュニティが広がるよう、体育協会やスポーツクラブ等と更に連携を図ることが必要である。

##### (2) スポーツ活動の促進

- : スポーツ合宿の誘致と団体支援
- : 指導者の確保、育成、研修機会の充実
- : 競技スポーツ技術力の向上

各種スポーツ団体による積極的な活動により、スポーツ合宿の受け入れや指導者の養成、競技選手・団体の活躍が見られ、本町出身のオリンピック日本代表が活躍するなど、町民に感動と希望を与え、これまでの活動が競技力の向上に繋がってきています。

今後も青少年から高齢者まで、それぞれのニーズに応じた活動の促進や活用を進め、地域スポーツの普及振興に努めることが必要である。

スポーツ合宿では、日本航空女子バスケットボール部やNECラグビー部の他、新たに明治大学ラグビー部が加わるなど、全国レベルのチームが合宿にきており、選手滞在による経済効果が見込まれている。

また、町内の中高生の部活動や少年団に対する指導が行われ、競技スポーツの技術レベルの向上が図られており、今後とも関係団体と連携しながら、施設の整備充実や受入体制の強化を図ることが必要である。

### (3) スポーツ施設の整備、活用

：既存スポーツ施設の維持補修

町内にはスポーツを楽しめる場として、屋内スポーツの中核施設であるスポーツセンターをはじめ、柏ヶ丘運動公園、網走川河畔公園、あさひ運動公園、リリー山スキー場などの施設が設置されている。

B & G海洋センターは、平成3年に建設された施設で老朽化が進んでいたことから、B & G財団の修繕助成金並びに北海道グリーンニューディール基金事業により、上屋鉄骨、プール缶体及びボイラー等の改修を実施した。

更には、国の地域活性化交付金事業により、トレーニングセンターの内装修繕を実施するなど、既存施設の整備に努めてきました。

今後も、住民の活動実態や要望を踏まえ施設の整備を進めていきますが、将来的な施設整備構想など、計画的な施設の整備と年次的な更新整備が望まれている。

近年、手軽に楽しめるスポーツとして、パークゴルフが普及したことにより、愛好者の増加やニーズの高まりから、より快適な活動ができる施設の整備が求められている。

このような状況の中、平成22年度からパークゴルフ場の有料化を実施したことに伴い、一層のパークゴルフ場の整備充実が求められており、今後も、関係機関、団体と連携を深めながらパークゴルフ場の整備充実を図る必要がある。

### 3. おわりに

輝く成熟した生涯スポーツを通して、町民一人一人の健康で明るい生活のため、また、人と人とのふれあいを大切にする地域づくりのためにスポーツ振興グループの使命は大きく、広い視野からその振興を図ることが求められています。

スポーツに対する町民の多様なニーズに応えるとともに、スポーツ団体や関係機関との連携を深め、誰もが生涯スポーツに取り組める社会の実現に向け、積極的な役割を果たしてまいります。

推 進 項 目		事 業 名	期 日	場 所	対象(募集人員)	参加人員	反 省 ・ 評 価
すくすく育む子どもの学び	親子で取り組める体験学習の拡充 マナーやモラルの向上 野外活動や体験活動の充実 関係機関・団体との連携による学習機会の充実 わかりやすい情報や情報交換機会の提供	1 スポーツ教室 親子水泳教室	7月2. 6. 9. 13. 16. 20日 (計6回)	海洋センター	4～6歳の幼児と母親 (30組)	19組40名 延85組170名	手足口病で休む親子が多かったが、親が付き添うことで顔を上げられない子も最後には水慣れし泳げるようになるなど上達し楽しんでいる様子が伺えた (託児17名延べ51名)
		わんぱくスポーツ教室	5/15. 6/26. 7/10. 9/25. 10/23. 11/20. 12/11. 2/19. 3/12日 (計9回)	スポーツセンター他	小学1年～6年生男女	34名 延212名	1日平均2.5名を超える参加人数で、レクリエーショントレーニングを実施して、体を動かす楽しさや礼節を養う事ができた。また、運動の習慣づけをすることで体力向上を図ることができた。
		中学生トレーニング教室	9月28. 29. 30日. 10月1. 4日 (美中) 9月16. 21. 22. 24. 27日 (北中)	トレーニングセンター	中学3年生 (各30名)	美中29名 延121名 北中16名 延 75名	トレーニングにおける理論や実技等熱心に受講する姿勢が伺え充実した教室となった。終了後の許可証を取得した後も継続してトレーニングに励んでおり運動の継続化が図られた。
		ラッコ水泳教室	6月16. 17. 18. 23. 24. 25日 (計6回)	海洋センター	小学1～3年生 (50名)	54名 延311名	定員を超える参加があり出席率も良く指導員を増員して対応していただいた。泳ぎの基本を指導し後半は泳ぎの上達が伺えた。
		少年少女バドミントン教室	11月10. 17. 24日. 12月1. 8日 (計5回)	スポーツセンター	小学3～6年生 (20名)	8名 延 35名	バドミントン協会担当者の熱心な指導により、打ち方・レシーブなど、基本的な技術を学ぶことによりゲームができる力が身についた。欠席者も少なく、運動の習慣化や体力向上を図ることができた。
		スケート教室	12月26. 30日. 1月3. 4. 5日 (計5回)	大正橋スケートリンク	小学1～3年生 (50名)	51名 延 224名	毎年定員を超す多くの申し込みがあり、参加者のレベルにあわせてスケートの基本技術を学ぶことができた。楽しんで体を動かしていた。
		初心者スノーボード教室	1月15. 22. 29日. 2月5. 12日 (計5回)	リリー山スキー場	小学3～6年生 (20名)	9名 延31名	参加者の積極的な姿勢は、個々のレベルを高め、全員が頂上から滑走することができるようになった。終了後は検定にも参加し、普及が図れた。
	2. 幼児の体力テスト 体力向上プログラム	5月10～17日 12月9日	東陽・美幌保育園 各季節保育所	4、5、6歳児	春 109名 冬 20名	春の体力テストの結果を基に結果の数値が低い傾向にある保育所の園児を対象に運動遊びのプログラムを実技指導し、運動の楽しさを体験させることができた。	
	3. 感動体験スポーツ研修	7月31(土)～8月3日(火) (3泊4日)	道立足寄少年自然の家	小学3年～高校生 (36名)	31名	当初大雪青年の家での研修を予定していたが、日程が取れず場所を変更し実施した。事故もなく計画どおり目的をほぼ達成することができた。	
	4. 水泳技能認定会	8月30日 (月)	海洋センター	小学生～高校生	42名	水泳少年団により実施し認定証を交付した。	
5. B & G 財団事業への派遣	7月29日～8月2日 8月 8日 3月下旬	沖縄 上富良野 小笠原島	小学5年～中学生 小学生 ～高校生 小学5年～中学生	1名派遣予定	派遣無し 派遣無し 東日本大震災の影響により延期		
6. サタ☆スポ (土曜日学校体育館開放)	通年 (5～9月、冬休み 期間を除く) 主に第2・第4土曜日	市内3小学校	小学生～一般町民	延431名	美小7回： 82名、東陽小9回： 85名、 旭小9回： 264名		



推 進 項 目		事 業 名	期 日	場 所	対象(募集人員)	参加人員	反 省 ・ 評 価
すくすく育む子どもの学び		7. 学校体育授業への外部指導者派遣の支援	随時	町内小中学校	小中学生		学校授業へ地域の指導者を派遣し、体育授業の効果的な学習の充実を図る。(水泳、スキー、スケート)
		8. スポーツ少年団の育成 スポーツ少年団の活動援助 1) スポーツ少年団活動を通して心身ともに健全な青少年の育成を図るため登録少年団の常時活動を支援する。 2) スポーツ少年団本部活動の指導・援助 ①宿泊研修(道立足寄自然の家) ②体力測定会 ③子どもスポーツフェスティバル ④常任理事 スポーツ少年団の結成促進	随 時	<スポーツ少年団登録団体> 1 ジュニア野球 11 旭ベースボールクラブ 2 クロスカントリースキー 12 ラグビー 3 スピードスケート 13 剣道 4 柔道 14 陸上 5 UF0サッカー 15 銃剣道 6 水泳 16 中2スピリット野球 7 トランポリン 17 ソフトテニス 8 空手道 18 ジュニアアルペン 9 大東流合気武道 19 旭バレーボール 10 ミニバスケットボール	(H22.6) 479名 小学生 423名 中学生 51名 高校生 5名	スポーツ少年団の活動援助 1) スポーツ少年団活動を通して心身ともに健全な青少年の育成を図るため登録少年団の常時活動を支援する。 2) スポーツ少年団本部活動の指導・援助 ①宿泊研修(足寄少年自然の家) ②体力測定会 ③子どもスポーツフェスティバル ④常任理事 スポーツ少年団の結成促進 未組織スポーツのグループ化と本部未登録少年団指導者の組織化を図る。	
わくわく広がるボランティア活動	自主的・自発的な活動を促すための情報の提供	1. スポーツ指導者講習会	3月23日(水) 午後7時~同9時	しゃきっとプラザ	一般町民	45名	「総合型スポーツクラブの意義と可能性」 北海道教育大学岩見沢校准教授 山本理人 氏
	スポーツボランティアの機会の提供 主体的なスポーツ活動の支援 人材育成の推進 関係団体との連携による継続した活動の促進	2. 体育協会の活動奨励	7月30日(金) 10月29日(金) 10月29日(金)	①町民と体育を語るタベ ②スポーツ講演会・体育賞表彰 ③スポーツ研修会 ④創立60周年記念式典 ⑤体育施設の維持管理委託業務 (あさひ体育センター・B&G海洋センター・大正橋パークゴルフ場・野球場)			体育協会との連携を図り、スポーツ振興を進めたい 講師 陸上競技 瀬古利彦 氏
		3. 全道大会開催の支援	9月18~20日	スポーツセンター他		80チーム 1,300人	・北海道バスケットボールクラブ選手権大会
		4. スポーツ団体合宿事業	6月下旬~8月下旬	あさひ広場公園多目的運動広場、柏ヶ丘陸上競技場、スポーツセンター	高校生・社会人		・日本航空女子バスケットボール部 6/27~7/3(8日) 16名 ・NECラグビー部 7/26~8/5(11日) 60名 ・明治大学ラグビー部 8/8~8/21(14日) 107名
にこにこコミュニケーション	家庭で取り組めるスポーツの提供 地域間、団体間でのスポーツ交流機会の提供 生涯スポーツをとおした世代 総合型地域スポーツクラブの理解促進 人材や団体の育成と支援 スポーツをとおしたコミュニケーションを深める機会の充実	1. 町民交歓 パークゴルフ大会	9月12日(日)	大正橋パークゴルフ場	町民一般 (自治会単位他)	自治会対抗の部12チーム85名 家族対抗の部4チーム8名 個人の部7名 計100名	
		2. 町民体育祭 前期 後期	6~11月 12月~3月	町内施設 町営スケートリンク リリー山スキー場他	町民一般 町民一般	19種目1,323名 4種目475名	
		3. 学校体育施設開放事業	随 時	美小、東陽小、旭小、北中、体育館・グラウンド	町民一般		美小(11団体)、東陽小(9団体)、旭小(7団体) 北中(5団体)

推 進 項 目		事 業 名		期 日	場 所	対象(募集人員)	参加人員	
いきいき支え合う高齢社会	高齢者の健康づくりに関する学習機会の充実 世代間のスポーツ交流機会の提供 生涯スポーツの普及・振興と社会に活かす機会の提供 気軽にスポーツを楽しめる機会と情報の提供	1. スポーツ教室	ゆうわスポーツ教室	11月8日～12月13日 毎週月・木曜日(計10回)	スポーツセンター	55歳以上 (30名)	14名 延102名	サークル等に所属している参加者は少なく、教室から運動に親しむ習慣化を図ることができた。教室終了後にサークル等へ入会希望を持つ方もいたことから、体力保持増進につながった。
	のびのび高める豊かな学習	1. スポーツ教室	トレーニング教室 (春季)	6月2.9.16日 (計3回)	トレーニングセンター	成人一般 (20名)	8名	本年度から実施回数を5回から3回に変更し参加者の拡大を図ったが、例年とほぼ変わらない参加人数であった。少ない回数の中で器具の使い方や保健師による健康講話など健康づくりに対する意識を高め参加者全員が許可証を取得し、教室終了後も継続的な利用に繋げることができた。
			トレーニング教室 (秋季)	10月13.20.27日 (計3回)	トレーニングセンター	成人一般 (20名)	7名	
			高校生トレーニング教室	12月1.3.6.8.10日 (計5回)	トレーニングセンター	高校生 (30名)	14名 延70名	本教室は、参加者全員1回の欠席もなく受講していたことから、熱心に受講する態度が伝わった。安全に器具の使用方法を会得したことにより、教室の終了後には、全員に許可証を発行した。
なでしこスポーツ教室			2月3.7.14.21日 (計4回)	しゃきっとプラザ	成人女性 (30名)	28名 延91名	事業後のアンケートでは、実施事業の満足が高く、教室の長期化を望む声も多かったことから、運動に対して興味を持つ方が多くなり、運動の継続化が期待できた。	
歩くスキー教室			1月15.22.29日.2月5日 (計4回)	歩くスキーコース他	成人一般	15名 延47名	年配の参加者が多い中、技術の習得から滑走距離も伸びて行き、教室終了後も、競技場にて継続してスキーを楽しむ参加者がいた。(100km走覇)	
2. チャレンジデー2010			5月26日(水) 午前0時～午後9時	町内	町民一般他	10,213名	当日小雨で天候にあまり恵まれなかったが4回目にして悲願の初勝利を上げることができ、運動スポーツのきっかけづくりと意識の高揚が図れた。	
3. B&G会長杯町民水泳大会			7月25日(日)	海洋センター	小学生～一般町	80名	大会新記録が多数出るなど盛会裡に終了した。20回の記念大会で前段に北見より講師を招き飛び込みなどの方法や平間顧問による救命法の講習を実施	
4. ビホロ100kmデュアスロン大会			8月21・22日(土・日)	美幌町	成人一般(300名) 小学3～6年生 (50名)	230名 26名	コースを一部変更したこととジュニアのカテゴリーを正式競技として実施し、応援も含め盛り上がりを見せた。	
5. トレーニング機器によるトレーニング指導			通年 火・金曜日 午後7時～9時 月・木曜日 午前10時～12時	トレーニングルーム	町民一般	平成22年利用 人数8,707名 許可証発行者 数 120名	許可証発行までの初心者指導のカリキュラムを見直し短期で取得できるよう利用促進を図った。	
6. 体力測定			随時	町内施設	町民一般			
7. 各機関・団体への体育指導		随時						

推 進 項 目	事 業 名	期 日	場 所	対 象	参加人員	反 省 ・ 評 価
のびのび高める豊かな学習	8. 全国・全道競技大会選手派遣事業	随時		体育協会加盟団体、スポーツ少年団他		12団体 1,385千円補助 (全道10競技 全国2競技)
	9. スポーツ関係団体連絡調整会議	4月～3月		関係機関・団体		各種関係団体と施設利用調整や事業の連絡調整等、円滑に行われた。
	10. 関係部局等への指導協力	民生部事業関係 ・ヘルスリーダー養成講習会 社会教育グループ事業関係 ・家庭教育学級 ・女性学級 ・明和大学体育クラブ、パークゴルフクラブ ・フレッシュママセミナー ・親子すくすく教室				関係部局と連携を深め関係事業に対し、指導協力をを行う。
		事 業 名				備 考
学習基盤の整備	情報提供の体制整備 指導体制の整備 施設の整備 生涯学習の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報活動『町広報』、『びほろっ子プレイガイド』への掲載への掲載（随時）</li> <li>・学習相談</li> <li>・体育指導委員（会議 年3回）</li> <li>・トレーニングルーム運営指導員（会議 年6回）</li> <li>・アクアインストラクター養成講習会（6月3～26日 沖縄県）</li> <li>・北海道体育指導委員研究協議会（10月28～29日 網走市）</li> <li>・社会体育振興セミナー・北見網走ブロック体育指導委員研修会（北見市）</li> <li>・社会体育講座（雄武町）</li> <li>・北海道スポーツ指導者研修会（札幌市）</li> <li>・B&amp;G幼児フロアリズム運動プログラム講習会（9月27日 大空町）</li> <li>・トレーニングルーム新機種購入整備（レッグプレス&amp;カーフプレス）</li> <li>・B&amp;G海洋センター改修工事（鉄骨全面塗装・缶体防水改修）</li> <li>・B&amp;G海洋センターバイオマスボイラー改修工事</li> <li>・総合型地域スポーツクラブの支援</li> </ul>				村田体育主事 4名参加 4名参加 不参加 2名参加 2名参加  平成22年3月29日設立
スポーツ施設の整備	トレーニングセンター整備 B&G海洋センター整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>○トレーニングセンター内装修繕工事（H23年3月）               <ul style="list-style-type: none"> <li>・大研修室（床修繕、壁塗装）</li> <li>・2階廊下（壁クロス張替）、視聴覚室（床張替）、2階壁（クロス張替）、和室（畳、襖、壁修繕）</li> </ul> </li> <li>○B&amp;G海洋センター改修事業（H22年9月～23年3月）               <ul style="list-style-type: none"> <li>・B&amp;G海洋センター改修工事（鉄骨全面塗装・缶体防水改修）</li> <li>・B&amp;G海洋センターバイオマスボイラー改修工事</li> </ul> </li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域活性化交付金（きめ細かな交付金）事業</li> <li>・B&amp;G財団修繕助成金</li> <li>・北海道ニューディール基金事業</li> </ul>

(8) 学校給食グループ

平成22年度学校給食グループ総括評価

1. はじめに

学校給食グループの事務事業を大別すると、「学校給食センター運営」と「スクールバス運行」に分けられる。

このうち、学校給食センターは児童生徒の健全な発達等を目的に設置され、学校給食法第2条に基づく目標達成のため、毎年、「美幌町学校給食基本計画」を定め、安心して安全かつ栄養バランスのとれた給食提供に努めているところである。

近年、食に関する知識の欠如、朝食の欠食や偏った摂取などの問題を抱え、学校給食を通じた児童生徒へ食に関する正しい知識や望ましい食習慣への指導強化が求められている。

このため、文部科学省が定める学校給食摂取基準に沿い必要なエネルギーや栄養素を満たすよう留意しながら多様な調理法を組み合わせた献立作成に務めているほか、美幌産農畜産物や加工品を可能な限り使用するなど地産地消の推進に併せ学校訪問指導を通じ地域農畜産業への理解を深める事業展開を推進しているところである。

次に、スクールバス運行事業については、統合地区小中学校の区域において民間バスや町営バスの運行していない区域を対象に児童生徒の登下校用として運行している。

現在、大型バス2台、中型バス1台、コミューターバス1台の合計4台を所有し、大型及び中型バスの3台については民間委託により運行しているほか、少人数の登下校時においてはハイヤーを代替として活用するなど、経費削減と効率的な運行に努めている。

平成22年度学校給食運営計画

区 分	内 容
学校給食の提供	小中学校全校を対象とし月曜日から金曜日までの週5回とする。
栄養摂取基準	小学校低学年 560kcal 小学校中学年 660kcal 小学校高学年 770kcal 中 学 生 850kcal
学校給食の内容	主食（米飯・麺類・パン）と副食（おかず・牛乳）を基本とし、1週間のうち米飯3回、麺類1回、パン1回を基準とする。
学 校 給 食 費	栄養の摂取と献立内容の保持改善を図るため、原材料購入経費として1食あたり単価を小学生237円、中学生282円とする。
保 護 者 等 連 携	学校給食の意義や給食指導への理解を深め学校及び保護者との連携を図るため「献立表」や「給食だより」を発行する。
食 育 推 進 指 導	栄養士等による学校訪問を行い、給食摂取状況の把握や栄養指導支援補佐を通じた食育指導を推進する。

2. 具体的取組の概括的評価及び課題と改善の方策

(1) 学校給食センター運営事業

① 安心・安全で栄養バランスのとれた学校給食の提供

平成20年4月から各種食材の高騰に伴い、児童生徒の1人1回あたり必要とされる摂取基準の確保を図るため、平成21年度から1食あたりの給食費改正を行い、小学生237円（改正前210円）、中学生282円（改正前253円）としている。

給食提供にあたっては、毎月、栄養士と調理員等による献立会議を開催し、安心して安全かつ栄養バランスの取れた給食となるよう取り組んでいる。

また、地産地消の取り組みについては、生産者や生産組織から直接購入（メロン・ニンニク・大根・キャベツ・切りゴボウ・グリーンアスパラ等）や生産者圃場での作物生育状況写真パネルの学校への展示、学校訪問による指導、地場食材を中心とした給食日を設けるなど、学校給食を通じた美幌農畜産業への理解を深めるきっかけづくりに心がけたところである。

なお、青果類の地場産使用割合は28品目中21品目で75.0%（前年度75.9%）で、野菜類の重量では45.3%（前年度45.7%）となっている。

前年度に比べ使用割合及び重量が下回る結果となったのは天候不順によるものである。

今後も、地場産農畜産物や加工食品の優先使用を推進して行くこととしている。

食育指導については、毎年、小学新1年生を対象として5月に、全小中学校では2学期に実施しているほか、毎月発行の「献立表」や年2回発行する「給食だより」に児童生徒及び保護者に対し家庭で共に考え知る内容の掲載に留意している。

また、保護者の試食会（26回）や高齢者等（20回）でのアンケート等による意見要望の聴取を行い、献立内容の充実改善を努めているところである。

今後も、学校給食の目的である児童生徒の健全な発達に資する内容充実に努めていくとともに、厳しい町財政を踏まえ効率的運営による経費削減の推進を図る。

## ② 施設維持管理事業

現給食センターは、ドライシステムにより平成9年4月から使用を開始しているが、開設後13年が経過し、経年劣化による各種調理機器等の故障が多くなってきている。

このため、委託業者による保守管理点検や職員による日常点検回数を増やすことにより、異常箇所の早期発見、修繕を行うことにより機器類の延命対策を実施するとともに、年度別修繕計画を策定し適切な維持管理に努めているところである。

また、耐用年数を過ぎた機器類については、計画的な更新を進めて行くこととする。

## (2) スクールバス運行事業

児童生徒を安全に送迎することを最優先とした運行を行うため、道路事情も考慮しながら住宅側（走行方向左側）で児童生徒を乗降させることを原則としているほか、道路交通法改正に伴う「シートベルト着装」の指導等を行い安全性の確保に努めているところである。

また、郊外地区においては町営バス、福祉バス、スクールバスの3部署のバスほか民間路線バスにより運行が行われているが、一部重複路線もあり非効率的なことから、町有バスの一元管理による効率的な運行と空白地区の解消が求められている。

このため、地域公共交通の活性化及び再生のための地域における取り組みを総合的かつ効果的に推進する目的で設立された「美幌町地域公共交通活性化協議会」に参画し、スクールバス・町営バス・福祉バスや乗り合いタクシー等による効率的運行により「郊外公共交通による空白地帯の解消」を図るため、平成21年度から平成23年度まで実証運行を行うこととし、平成22年度においては6ヶ月間実証運行を実施したところである。

## 3. おわりに

近年、家庭における食文化の多様化と変化に伴い、児童生徒の嗜好と望ましい食生活との間に隔たりがでてきている。

学校給食の使命として、日本の食文化を理解し、後生に伝えていくことや豊かな味覚の形成、生活習慣病の防止等の観点から、家庭における日常の食生活の指標となる一役を担っていることから、給食や食への理解を深めるよう更なる献立の工夫とともに献立表や給食だより等の内容充実に努めていくこととする。

また、近年、食の安全・安心が脅かされて状況から、学校給食の安心・安全を最重要課題として調理施設の衛生管理と産地等確認、食品検査の実施により安全性の確保徹底に努める。

	事務・事業名	事業の目的・内容	点検・評価	課題等
<p>すくすく育むものからだ</p>	<p>学校給食運営事業</p>	<p>調理機器等施設維持管理 平成9年4月開設後、経年劣化により各種調理機器等の故障が多くなってきていることから、日常の点検整備に努め機器の使用年限を高めるとともに、耐用年数を過ぎた機器の計画的な更新を図る。</p>	<p>ボイラー及び廃水処理施設等保守点検業務委託、食器洗浄機コンベア交換、食缶洗浄機コンベアモーター改造、油ろ過器吸引ポンプ交換、蒸気小釜ウォームギア交換、各種ボイラー等修繕を実施し、施設の適切な維持管理を図った。</p>	<p>経年劣化により調理機器や各種ボイラー等の能力低下による故障が頻繁に発生してきている状況にあり、計画的な交換修繕と更新を進める必要がある。 このため、日頃から各種機器の点検に努め、修繕及び更新計画（投資的経費・総合計画実施計画）の掲載により更新と修繕を図っていく。</p>
	<p>学校給食の提供 学校給食の目標（学校給食法第2条）に基づき、心身の健全な発達を促すため、安全で楽しい給食の提供を図る。</p>	<p>主食(米飯・パン・麺類)と牛乳、副食を基本とし、1週間のうち米飯3回、パン1回、麺類1回を原則として、年間355,259食(1人188~199食)の提供を行った。 提供に当たっては、栄養面や安全性に配慮しながらバラエティに富んだメニューによる提供に心がけた。 また、食材や加工食品の安全性の確認を行うため、6品目8回の食品検査を実施した。</p>	<p>学校給食栄養摂取基準に沿って提供を行っているが、児童生徒の嗜好の変化を踏まえ、残食を少なくする献立の工夫が必要となっている。 また、食の安全に関わる事故が発生しないよう、食品検査の実施や食材や加工食品の安全性の確認及び衛生管理の徹底をより一層図る必要がある。</p>	
	<p>地産地消の促進 安心して安全な食材による顔の見える給食提供のため、美幌産農畜産物について生産者等からの直接購入を促進する。</p>	<p>地場農畜産物品目使用割合は、生産者及び生産組織からの直接購入が加工品、調味料、菓子類を除いた農畜林産物41品目中27品目で65.9%の使用割合となっている。 また、重量割合では、45.3%となっており、共に不作により前年度を若干下回る結果となった。  ○道産食材購入率 北海道食育推進計画(第2次)：平成25年度目標75% 平成22年度実績：農林産物:65.1%                   精米:100%                   北海道学校給食会仕様パン及びうどん(道内産小麦粉):100%                   豚もも肉:100%</p>	<p>地場農畜産物の優先使用を行っているが、天候不順等により年々使用数量が低下してきている。 このため、一生産農家では数量確保に限られることから、安定量確保のため生産法人等組織との連携が必要となっている。</p>	
	<p>学校給食指導(食育)の推進 生涯を通じた健全な食生活の実現、食文化の継承、健康の保持増進等が図れ美幌農畜産物を学べるよう、発達段階に応じ各小中学校訪問や授業等指導の支援を促進する。</p>	<p>5月中旬に全小学校の1年生を対象に、2学期においては各小中学校の1学級において、「魚の栄養について」、「よくかんで食べよう」、「牛乳について」と題し栄養指導等を行うとともに、児童生徒及び教諭から給食に対する希望を聴き取り、今後の業務や献立作成の参考として役立てている。 また、毎月発行の「今月の献立」や年2回発行の「給食だより」を活用し、児童生徒及び保護者向けに食育について家族で共に考える内容となるよう心がけた。</p>	<p>偏った食生活による栄養過多や児童生徒の嗜好の変化により、野菜類を中心とした一部食材や牛乳の残食が多くなっている。 このため、各学校の理解を得ながら、食事について正しい理解と望ましい食習慣を養う授業等への栄養職員支援体制を図っていくことが必要である。 また、PTA等が開催する調理実習への講師等支援協力を進める。</p>	
<p>子どもたちの安全な登下校</p>	<p>スクールバス運行事業</p>	<p>登下校の安全な送迎 統合地区における児童生徒の登下校及び校外学習、社会教育事業等参加者の送迎のため、スクールバス(4台)を運行する。 なお、少人数路線については、効率及び経費削減を図るためハイヤーによる代替運行を併用する。</p>	<p>住宅側での乗降による児童生徒の安全面を考慮しながら運行を行った。また、下校路線の一部について直営により運行することにより運行委託経費の削減を図るよう務めた。 町有バスの効率的運行を目的に、9月から6ヶ月間実証運行を実施を行い、保護者からは学校発着等による安全な送迎に高い評価であったものの、「土曜日の運休」や「市街地に早朝に着く」ことなどに対して高齢者から改善要望が強く出されている。 平成24年度からの一元化に向け、平成23年度中に各地域や保護者等との協議検討を進めることとしている。</p>	<p>大型及び中型の3台については車両維持管理を含めた委託としスクールバスの運行経費の削減を図っているが、町有バス(町営・スクール・福祉)全体の効率的運行と経費削減、公共交通空白地区の解消を図るため、引き続き「美幌町地域公共交通活性化協議会」に参画し、児童生徒の登下校における安全な送迎確保一元化に伴う体制整備などについて検討協議を行っていくことが必要である。</p>